

横浜国立大学の ディプロマ・ポリシー 4つの実践的「知」			学芸・諸科学に関する豊かな知的資産を学び、グローバル新時代に求められる幅広い専門性と多様な応用力を修得し、世界を舞台に挑戦できる知識・教養	経済学部の ディプロマ・ポリシー	グローバル化・多極化の進展と新興国・地域の勃興にともなう経済社会の課題を、国や地域の固有な条件(制度・歴史・文化・商習慣・法制度・環境など)に適応して、深い洞察力を備え把握する能力を身に付ける。												
			グローバルとローカルの視点から文理融合と分野横断を追求し、新たな「知」を創造して諸課題の解決に導く思考力		日本経済は出生率低下と高齢化による生産年齢人口の減少、労働生産性の低迷、国内市場縮小が進み、国際競争力の低下が懸念されている。海外労働力と海外市場の成長性を取り込んで生産性向上を図り、さらに省エネルギー、自然災害への取組、高齢化問題、社会福祉といった経済社会問題を解決するためのイノベティブな経済社会メカニズムをデザインする能力を身に付ける。												
			外国の社会制度、文化、宗教、習慣などの多様性に対応できる国際的視点から共生社会の実現に貢献できる高いコミュニケーション力		グローバルまたはローカルな諸課題に対して必要な情報・データにアクセスし、明晰な分析を加え、情報発信できる能力を身に付ける。その際、数学・外国語・情報処理の能力を駆使して、経済学の専門知識と統計的・数理的手法をもとにイノベティブな解決策を提案できる技能を身に付ける。												
					アジアで展開するグローバル・ビジネス、世界規模で連動する金融取引、日本のローカルでの公共政策の実施といった局面で発揮することが期待されるコミュニケーション能力、実践的英語力、リーダーシップを身に付ける。												
			社会が直面する諸課題を解決する強い意志と責任感、普遍的な倫理観に基づく予測困難で変化の激しい時代を主体的に生き抜く人間力		経済学部（経済学科）に置くGlobal Business and Economics教育プログラム（GBEEP）では、グローバル企業で活躍するビジネス・パーソンとなるべく、経済学と経営学の両方を学修し、高い英語運用能力を身に付ける。経済学科本体の教育プログラムとは異なり、経済学を主専攻、経営学を副専攻としてより多くの単位を修得させる。												
科目名			講義の目的	到達目標	(◎＝DP達成のために、特に重要な事項、○＝DP達成のために、重要な事項、△＝DP達成のために、望ましい事項)												
					知識・教養			思考力		コミュニケーション力			倫理観・責任感				
					専門分野に関する基本的な知識	社会、文化、自然に関連づける幅広い教養	グローバル新時代に必要となる豊かな知見	グローバルとローカルの視点から課題解決プロセスを構想し、実践する論理的思考力	既存の枠組みに安住しない批判的思考力	文理融合と分野横断を追求して新たな「知」を生み出す創造的思考力	偏見や先入観を持たずに相手の考えや気持ちを理解する受容力	相手の考えや置かれた状況に応じて、自分の意見を適切に伝える発信力	多様な人々と協働して問題解決にあたる調整力	社会が直面する諸課題を解決するため、主体的に社会に参画する強い意志と責任感	自己の利害のみにとらわれず、人としてあるべき姿を自覚した高い倫理観	生涯にわたって学び続け、グローバル新時代を主体的に生き抜く人間力	
専門基礎科目	ミクロ経済学入門	ミクロ経済学は、個人や個々の企業はどのようなインセンティブ（動機・誘因）に従って意思決定するのだろうか、という視点から社会や経済の様々な問題を分析する学問で、経済学の様々な応用分野を学ぶための基礎でもある。この授業の目的は、経済学の専門科目を学んでいく上で必要不可欠な「経済学の考え方」や基礎知識を習得することである。	1. ミクロ経済学の基礎的な概念を説明できる。 2. ミクロ経済学の基礎的な計算問題を解くことができる。	◎	○									○		○	
	マクロ経済学入門	主に1年生を対象とした初級レベルのマクロ経済学の講義である。マクロ経済学とは、国民所得や経済全体としての消費、投資、失業率などの集計概念を用いて経済全体の動きを分析する経済学である。マクロ経済学はミクロ経済学とともに近代経済学の基礎をなす。専門基礎科目「ミクロ経済学入門」とあわせて受講することと、専門科目「マクロ経済学」に進む前に本講義を受講することを薦める。	(1) 経済学の基本的な考え方を理解する。(2) 重要な変数の定義と測定法を理解する。(3) 所得・生産、失業、消費、貯蓄、設備投資、金利、インフレーション・デフレーション、貿易・経常収支、為替レートなどが、市場でどのように決定されるのかを理解する。(4) 経済成長と景気循環はなぜ起こるのかを理解する。(5) 政府はどのような経済政策を行うべきかについて意見を持てるようになる。(6) 以上のことを、論理的に（理論モデルを使い）、実証的に（データを示しながら）、他人に説明できるようにする。	◎	○									○		○	
	グローバル・エコノミー入門	「経済」という言葉は「経世済民」の略語である。経済学を勉強する者は、国家の発展と人々の生活の向上に関わる経済的メカニズムを理解する必要がある。本授業では、グローバル化が進化する20世紀後半以降のアジア経済に注目し、この時期における経済発展の経緯を理解するとともに、開発経済学の基礎的知識を身につけることを目的とする。	グローバル化の時代における経済学の意味と経済発展のメカニズムに関する基礎的な視角を養うことができる。				○	◎	○							○	
	ポリティカル・エコノミー入門	この講義は、これから経済学を学んでいく学生を対象に、経済学とはどのような学問か、現実の制度や政策とどのように関連するのかといった内容を扱います。また、現代経済の仕組みや日本経済の歴史や現状のほか、金融、財政、労働、福祉といった個別領域も取り上げて紹介することで、受講生がこれからの経済学の学習において専門性を深めていくために必要な経済現象や経済学に対する理解を促すことを目的としています。	専門的な経済学の学習の前提となる基本的な経済の仕組みについて理解する。			◎					○					○	
	経済史入門	西洋経済史における重要なトピックを学ぶことを通じて、経済現象を歴史的に考察する手法についての理解を深める。	歴史と経済の接点にある経済史という学問分野の特徴を理解し、経済現象を歴史的に考察する視点を身につける。				◎		○	○							○
	経済と倫理	人が生きに当たっては、倫理を満たすことを手始めに生存の条件を確保することが不可欠であるとともに、誇りや意欲もまた大切なものと考えられる。果たして人が営み集まるなかで、倫理は相互利益や紛争に陥ることなく、みなそれなりにメリットを享受できるような好都合な形に収まっているのだろうか。たしかに、利害対立や偏見など諸星を避けるため「道徳な人間を求めねばならない」という主張が、それではびくばくは強制してしまうかもしれない。逆に、道徳性や倫理に導かれた道徳的な経済活動を営むために、規制を取り払い「自由」を営みに委ねていけばよさそうに見えるが、安撫に委ねるままに委ねたのでは、ただ票取りや欺瞞の横行し、腐敗に満ちた状態に陥るかもしれない。これらは社会という場においては、いわば同時並行的に展開される人びとや組織、人間集団のあいだでの関わりで顕著になる事象である。だが、我々が向かい合っている問題は、いまひとつの局面である。およそ人間が、自然のなかでどのように振舞い、どのように社会的制約を受けながら、という問題である。経済や倫理などの見方は人間の力で仕かたづけられようという問題ではないが、それである。これらに答えなければならない。逆に、人間のありかた、倫理規範がどうであるように自然を扱うこともできる。この講義では、近代以降の社会思想、経済思想を手掛かりにして、自然・人間・社会のあいだの関わり方をめぐり、視覚的に考える。	社会のあり方をめぐって、自分らしくユニークに提起できる。			◎	○							○	○		
	法学入門	法律学とは何を学ぶ学問なのか、法律は日常生活の中でどのように用いられているのか、について基本的な理解をする。	私法、公法の基本的な体系を理解し、裁判実務の基本的な流れを理解する。	◎	○										○	○	
	法哲学	法哲学は哲学的な分析を道具として、法一般に関わるさまざまな概念や事象をより良く理解することを目的とする分野である。たとえば法を解釈すると法律家は言うが、「解釈」とはいったいどのような作業なのか、法が実現を目指す「正義」といった概念がいったい何のことなのか—こうした問題も、そもそもどのような探求に答えるのかどうかを含めて、探求するのが法哲学の基本的目標である。本講義は、法哲学の中でも、正義論（正義とは何か）を中心に取り上げ、その基本的な理解を養うことを目的とする。	1：「功利主義」や「リバタリアニズム」といった正義論上の立派な立場について、そのおおよその内容を理解し識別できる。 2：社会やルールのあるべき形について、他者に理解可能な理由付けを用いて主張・伝達できる。	○	◎										○	○	
	コンピューター・リテラシー	本講義は、レポートや論文を効果的に作成するための思考力や検索能力をはじめ、効率的に作成するためのツールの使い方を学修する。具体的には、Wordやプレゼンテーションに活用するPower Point、データ分析に活用するExcelやRの活用方法について、実習を通じて効果的な表現手段を修習することを目標とする。その他、レポート・論文作成にかかわる学術・統計情報の検索方法についてもあわせて実習し、経済理論や社会での活用方法を、実例を交えて紹介する。	・ Word・Excel・PowerPoint・Rの特徴を理解してそれぞれの基本操作を身に付け、レポート作成に活用できる。 ・ 実習形式の授業に困らない程度のタイピング能力を身に付け、演習や質問時に適当な速さで入力できる。 ・ 学術・統計情報の検索ができる。	◎					○		○				○		
	データ解析	本講義では、ExcelやRの操作方法を復習しつつ、以下を実践的なデータを用いた演習を通じて学び、理解を深めることを目標とする。 ・ 大量で複雑なデータの特徴を数量的、視覚的に示すこと。 ・ 統計学の基本的な考え方を学び、活用してデータ分析を行うこと。 ・ 簡単な回帰分析を行い、その結果を解釈すること。 また、経済理論やその社会での活用方法を、実例を交えて紹介する。	・ ExcelやRを適切かつ効率的に扱い、大量で複雑なデータの特徴を数量的、視覚的に示すことができる。 ・ 統計学の基本的な考え方を活用してデータ分析を行うことができる。 ・ 簡単な回帰分析を行い、その結果を解釈できる。 ・ 紹介した実例について学問的内容とくに社会科学に関わる部分の全体像をつかみ、数学的・論理的内容を読み取ることができる。	○			◎		○					○			
	データサイエンス・リテラシーⅠ	本講義は、レポートや論文を効果的に作成するための思考力や検索能力をはじめ、データサイエンスで利用されることの多いツールの使い方を学修する。具体的には、WordやPower Point、Excelの基礎を確認した上で、RやPythonの基礎的な活用方法を学び、実習を通じて効果的な表現手段と使い方を修習し、データサイエンスの一端に触れることを目標とする。その他、レポート・論文作成にかかわる学術・統計情報の検索方法についてもあわせて実習し、経済理論や社会での活用方法を、実例を交えて紹介する。	Word・Excel・PowerPoint・R・Pythonの特徴を理解してそれぞれの基本操作を身に付け、レポート作成に活用できるようにする。 データサイエンス・リテラシーⅡの授業に困らない程度のプログラミング能力を身に付ける。 学術・統計情報の検索ができるようになる。	◎					○		○				○		
	データサイエンス・リテラシーⅡ	本講義では、RやPythonを用いて以下を実践的に学ぶことを目標とする。 ・ 大量で複雑なデータの特徴を数量的、視覚的に示すこと。 ・ 統計学の基本的な考え方を学び、活用してデータ分析を行うこと。 ・ 簡単な回帰分析を行い、その結果を解釈すること。 また、経済理論やその社会での活用方法を、実例を交えて紹介する。	RやPythonによって大量で複雑なデータの特徴を数量的、視覚的に示すことができるようになる。また、統計学の基本的な考え方を学び、活用してデータ分析を行えるようになる。さらに、簡単な回帰分析を行い、その結果を解釈できるようになる。同時に、学問的内容とくに社会科学に関わる部分の理解、数学的・論理的内容の理解が体系的に身についていること。	○				◎		○				○			
	基礎演習	基礎演習は1年次向けの導入教育として設けられるものであり、①本学の学生として最低限おさえておくべき事項を「アカデミック・リテラシー」、「シビック・リテラシー」、「情報リテラシー」の3分野にわけて学ぶこと、②大学において学修を進展させる際に必要となるアカデミックな基礎的技能（文献検索・データの検索、本・論文の読解、レポート・論文の作成、プレゼンテーションなど）の習得を目的としている。	本学の学生としておさえておくべき「3つのリテラシー」を身につけることができる。 大学での学修に必要なアカデミックスキルの基礎を身につけることができる。						○		○	◎				○	
	導入演習Ⅰ	標準的な大学の学びでは、既に習得された学問的基礎を体系的に学習していくことが求められます。それはもちろん卒業に必要なことであり、みなさんにも今後大いに役に立たないと思われています。ただ、そうした学習形態では、そもそもなぜ特定の学問的知識を学ばなければならないのかに答えられないまま、受け身的に授業に参加する形となりかねません。また、既にある問題ではなく新しく起きている問題を解決しようという能力は、そうした既存の学びではどうしても不足しがちです。英文や判例の解釈を中心とする法律学ではよくその傾向が顕著でした。しかし、今後の社会では、そうした能力は益々重要になってくると考えられます。そこで本講義では、導入演習Ⅰと併せて、参加者全員がローカルな課題を提出し、それらとどのように解決していけば良いのかを考えます。この作業を通じて、今後のGBEEPにおける学習の意義を再確認することが、本演習の一番の目標です。導入演習Ⅰでは、自分たち自身で社会にどのような問題が存在するのかを調べ、それを課題として提示できるようにすることを目標としています。	自らの体験に基づいて、あるいはテレビや新聞、インターネットといったメディアの報道を通じて、今社会において解決に迫られていると考える課題を、他の受講者に提示することができる。								◎		○			○	
	導入演習Ⅱ	標準的な大学の学びでは、既に習得された学問的基礎を体系的に学習していくことが求められます。それはもちろん卒業に必要なことであり、みなさんにも今後大いに役に立たないと思われています。ただ、そうした学習形態では、そもそもなぜ特定の学問的知識を学ばなければならないのかに答えられないまま、受け身的に授業に参加する形となりかねません。また、既にある問題ではなく新しく起きている問題を解決しようという能力は、そうした既存の学びではどうしても不足しがちです。英文や判例の解釈を中心とする法律学ではよくその傾向が顕著でした。しかし、今後の社会では、そうした能力は益々重要になってくると考えられます。そこで本講義では、導入演習Ⅱと併せて、参加者全員がローカルな課題を提出し、それらとどのように解決していけば良いのかを考えます。この作業を通じて、今後のGBEEPにおける学習の意義を再確認することが、本演習の一番の目標です。導入演習Ⅱでは、ローカルな課題を解決するためのアイデアを自分たちで考えていく作業が中心になります。	自らの体験に基づいて、あるいはテレビや新聞、インターネットといったメディアの報道を通じて、今社会において解決に迫られていると考える課題を、他の受講者に提示することができる。									○		◎		○	
	Global Economy	This course discusses phenomena and impacts of globalization from the perspective of development economics at intermediate level by examining various industries as well as changes in digital technology, environment and household income. All lectures are offered in English. However, students may use both Japanese and English for discussion.	a)Able to read and understand economic textbooks in English. b)Able to collect and use economic data. c)Able to conduct teamwork on economic analysis.				◎		○	○					○		
	International Economics	To gain a deeper understanding of the benefits and costs of "globalization", the gains from trade, and the causes and costs of trade protection. In the second half of the course, we will study the origins of trade surpluses/deficits and the basics of Exchange Rate theory. This course will enable you to better understand the current US-China trade war, the CPTPP (a Free Trade Agreement) and many other current economic events. Students will also learn about the behavior of multinational firms, and also the economics of immigration.	Upon completion of this course, the student will have a deeper understanding of the gains from trade and effects of tariffs and other distortive trade policies. Also, the student will have a better understanding of the basics of trade deficits and surpluses and basic XR theory.	○			◎		○							○	

専門 基幹 科目	経済原論1	経済原論として数例的な分析の紹介と応用を目的とし、産業連関モデルについて基礎から学ぶ授業です。一国または世界における経済循環を数字で表し、経済波及のプロセスについて学びます。	産業連関表と基本的な産業連関モデルを理解して、実際のデータを用い、基本分析ができるようになることです。	◎	○					○							○
	経済原論2	経済原論として数例的な分析の紹介と応用を目的とし、産業連関モデルについて基礎から学ぶ授業です。一国または世界における経済循環を数字で表し、経済波及のプロセスについて学びます。	産業連関表と基本的な産業連関モデルを理解して、実際のデータを用い、基本分析ができるようになることです。	◎	○					○							○
	ミクロ経済学1	この授業では、「市場のはたらき」を中心テーマに据え、 ① 市場での価格や取引量がどのように決まるのか、 ② 人々は市場の中でどのように需要量や供給量を決めるのか、 ③ 効率性の観点に立つとき、市場取引の結果は望ましいといえるのか という3点について『ミクロ経済学』の基本的な考え方を学習します。	本講義の到達目標は次の2つの基準を一定水準以上で満たすことです。 ①『ミクロ経済学』の基本的な話題について専門用語とともに理解する。 ②それらに関する具体的な問題を解ける。			◎											
	ミクロ経済学2	この授業では、「市場のはたらき」の基礎を学習したミクロ経済学1の内容を踏まえつつ、 ①市場より一般的な社会環境における個々人の選択やその社会的帰結（ゲーム理論） ②市場のはたらきを阻害する要因（市場の失敗） という2点について『ミクロ経済学』の基本的な考え方を学習します	本講義の到達目標は次の2つの基準を一定水準以上で満たすことです。 ①『ミクロ経済学』の基本的な話題について専門用語とともに理解する。 ②それらに関する具体的な問題を解ける。			◎											
	マクロ経済学1	この授業の目的は、マクロ経済学で扱われる基本的な概念や理論を修得することである。経済の指標となる国内総生産、物価、利率、失業率、貯蓄率などがどのように決定されるのか、景気の変動が何によって引き起こされるのか、また金融・財政政策といったマクロ経済政策はどのような効果を持つのかについて考察する。	IS－LMモデル、総需要・総供給モデル、マンデル＝フレミング・モデルなど、授業で学ぶマクロ経済モデルを用いて、経済政策や経済ショックの影響を分析することができる。			◎											
	マクロ経済学2	この授業の目的は、ミクロの基礎にもとづいた理論モデルを用いて、マクロ経済における消費者の消費・貯蓄行動や企業の投資行動について分析することである。また、世代重複モデルを用いた異世代間の資源配分問題、動学的AD-ASモデルを用いた短期的な経済変動、経済成長モデルを用いた長期的な経済の動きについても分析を行う。	マクロ経済における消費者の行動や企業の行動を理論モデルを用いて分析することができる。ソローの経済成長モデル、世代重複モデル、動学的AD-ASモデルを用いて、経済政策や経済ショックの影響を分析することができる。			◎											
	現代経済システム1	本授業は、現代の経済システムで働く様々なメカニズムを経済学がいかに記述しているのかを把握し、その利点と現時点の限界および政策などの背景を学ぶものである。現代では先進国を中心に市場取引を伴う形の資本主義経済が採用されているが、その制度的な多様性や変遷、そして取引原理に基づく市場経済について多様な学派の見解を体系的に理解することが本授業の目的となる。	複数の市場経済の記述モデルの利点・限界・違いを把握する。自己調整的な市場システムという概念の歴史の変遷を理解する。政策や経済関連のニュースを、その裏にある理論的な背景を考慮した上で受け取ることができる。	○			◎	○	○								
	現代経済システム2	本授業は、現代の経済システムで働く様々なメカニズムを経済学がいかに記述しているのかを把握し、その利点と現時点の限界および政策などの背景を学ぶものである。現代では先進国を中心に市場取引を伴う形の資本主義経済が採用されているが、その長期・中期の動態を景気変動・経済成長・分配・安定性そして制度的な調整機能について多様な学派の見解および分析手法を体系的に理解することが本授業の目的である。	位相図など標準的な動学分析のツールを使うことができる。市場分析の理論と制度的分析の両方の長所を説明することができる。	○			◎	○	○								
	経済史1	本講義の目的は、資本主義社会はどのように生まれ、どのように発展してきたのかについて、欧米先進国を中心に基本的な歴史的事実を解説することにある。この授業によって、受講生は欧米諸国を中心とした資本主義経済の歴史を基本的に理解し、個別テーマに関する精緻な歴史研究や、現代経済に関する研究書を理解する上でも基盤となる歴史的事実を把握することができる。	産業革命や独占資本の形成など経済史上の基本的な事実について認識し、その原因や結果などの因果関連について、表現することが可能になる。したがって、経済史に関するa.知識・教養を習得し、b.思考力を身につけることができる。	○	◎		○										○
	経済史2	本講義の目的は、第1次世界大戦後の欧米資本主義社会はどのような歴史を経過して、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスの経済発展を比較しながら明らかにすることにある。この授業によって、受講生は欧米諸国を中心とした資本主義経済の歴史を基本的に理解し、個別テーマに関する精緻な歴史研究や、現代経済に関する研究書を理解する上でも基盤となる歴史的事実を把握することができる。	世界恐慌や戦後経済成長など経済史上の基本的な事実について認識し、その原因や結果などの因果関連について、表現することが可能になる。したがって、経済史に関するa.知識・教養を習得し、b.思考力を身につけることができる。	○	◎		○										○
	経済政策1	本講義では、国家によって行われる経済政策の理論、現状、及び課題について学ぶ。とりわけ、必要・自由・平等といった諸概念と経済政策の関係、国家と経済政策の必要性、各時代の主流経済思想と実際の経済政策の展開の関係、及び日本や諸外国の経済政策の特質に着目し、今後の経済政策のあり方について考えていく。	・経済政策とはどのような学問として発展してきたかを理解し、説明出来る。 ・世界各国の政治、経済、社会がどのように交わりあい、発展してきたか説明できる。 ・今日の日本及び諸外国の経済政策の状況と、あるべき経済政策の姿を論ずることができる。	○	◎			○						○			
	経済政策2	本講義では、国家によって行われる経済政策の理論、現状、及び課題について学ぶ。とりわけ、必要・自由・公正といった諸概念と経済政策の関係、国家と経済政策の必要性、各時代の主流経済思想と実際の経済政策の展開の関係、及び日本や諸外国の経済政策の特質に着目し、今後の経済政策のあり方について考えていく。	・経済政策とはどのような学問として発展してきたかを理解し、説明出来る。 ・世界各国の政治、経済、社会がどのように交わりあい、発展してきたか説明できる。 ・今日の日本及び諸外国の経済政策の状況と、あるべき経済政策の姿を論ずることができる。	○	◎			○						○			
	経済数学	経済数学について講義を行う。線形代数と微分・積分の復習からはじめ、数理ファイナンスへの応用として、最適化理論を学ぶ。	最適理論の基本的な演習問題を解けるようになる。	◎	○		○			○							
	数理統計	微分積分学を使って確率・統計学の知識を数理的に身につけることを目的とします。まず、二項分布、ポアソン分布、指数分布、正規分布、ガンマ分布など基本的な確率分布について学びます。そして、母集団から無作為に抽出した標本に対して、大数の法則と中心極限定理がどのように統計的推測について役立つか学びます。また正規分布からの派生分布も理解してもらい、そのうえで点推定、区間推定、検定についても学びます。	1. 確率変数と確率分布が理解できること。 2. 母集団と標本の違いがわかり、母集団分布と標本分布の違いがわかること。 3. 中心極限定理と大数の法則が、モーメント母関数を使った証明を通じて数学的にも正確に理解できること。 4. 点推定と区間推定の違いが理解でき、信頼水準の意味がわかること。 5. 検定の意味がわかり、第1種と第2種の誤りが理解できること。 6. 正規分布からの派生分布の理論が理解できること。	◎	○		○		○								
	計量経済学	本講義では、データ分析に用いられる計量経済学・統計学の手法について習熟することを目的とする。	1.データ分析で利用される統計手法について簡単に説明できる。 2.学習した統計手法がどのようなデータ分析に利用される説明できる。 3.簡単なデータ分析の設定の下で学習した統計手法の具体的な計算ができる。	◎	○		○		○								
	経済統計	日本の統計調査の概要を把握し、統計に現れた数値の背後にある人々の行動を説明する経済理論について学ぶことを目的とする。また、日本の統計調査から得られる実際の数値を使って、日本の経済状況をグラフや表を用いて表現する方法を学ぶことを目的とする。統計ソフトとして主にエクセルを使用する。	統計調査や経済理論の特徴を説明できる 統計ソフトを使いグラフや表を作成できる	◎	○		○		○								
	ミクロデータサイエンス（DSEP）	本講義は、(1) 社会経済の理解の基礎となるデータ分析について、批判的に吟味できると、そして(2) プログラミングを実際に経験することで基本的概念を学び、プログラミングをこれから独立して学び続けていくための知識・技能を体得することを学ぶことを目的とする。この講義は、確率変数や大数の法則、中心極限定理などの確率論の基礎を学び、その上で最尤法、最小二乗法、仮説検定、重回帰分析や因果推論の手法などを学びます。	大数の法則と中心極限定理、正規分布の特性、無作為抽出や無作為割り付けの意義、確率変数と確率分布、そして裾の厚い分布と統計分析の限界、期待効用理論における情報の価値を理解する。また、ベイズの法則の応用、最尤法と最小二乗法の実践、仮説検定解釈をできる。最尤法と最小二乗法の理論的根拠、固定効果やクラスター標準誤差、操作変数法や回帰不連続などの具体的な手法を理解する。Rを用い回帰分析、グラフ作成ができる。	○	○					◎				○			
	マクロデータサイエンス（DSEP）	マクロ経済モデルによる経済現象の説明や予測を実際にデータを用いて検証し、それを通じてデータ分析の基礎手法を習得する。データサイエンスにおける最も基礎的なタスクである“記述”がマクロ経済学の分野でどのように役立てられているかを理解する。	データサイエンスのタスクの一つである“記述”の意義を理解している。 データを誰から見てもわかりやすい形で可視化できる。 興味のある変数について適切に“記述”することができる。	○	○					◎				○			
	憲法	小学校以来、多くの人が「日本国憲法」を学んできたと思う。しかしそれはまさとして「戦争の放棄」や「主権在民」「基本的人権の尊重」などの憲法の「精神」の引き込みか、別に「三権分立」の強調された国政の模範などが中心だったのではなかろうか。だが、憲法は実際の政治や裁判における具体的な規範であり、国政の「最高法規」であり、これに反する公権的行為は許されないというものである。決して単なる「お題目」ではない。このような日本の基本法の理解・理解などについて私をますますサシと「恥」ことが大層である。このような観点から、本講義では、憲法を知ることが必要な、憲法の人権論分野における学説、判例、政府見解を解説する。特に、裁判官がいかなる基準で、人権侵害とも思える法律や政府行為の合憲性を判断すべきか（人権の法的保障）という点に焦点をおく。このため、議論が多い人権論分野を「憲法2」に回し、裁判官及び憲法訴訟について本科目で講義し、また、論争的な多岐の議論をこちらで講義する。重要な論点を更スツルも、考える力を養成して欲しい。	日本国憲法が保障する基本的人権をある程度理解した上で、具体的な事案について法的な思考過程を経た上で、単なる感情論や政策論ではない法的な結論を導出することができることを目標とする。	○	◎									○	○		
	憲法Ⅰ	小学校以来、多くの人が「日本国憲法」を学んできたと思う。しかしそれはまさとして「戦争の放棄」や「主権在民」「基本的人権の尊重」などの憲法の「精神」の引き込みか、別に「三権分立」の強調された国政の模範などが中心だったのではなかろうか。だが、憲法は実際の政治や裁判における具体的な規範であり、国政の「最高法規」であり、これに反する公権的行為は許されないというものである。決して単なる「お題目」ではない。このような日本の基本法の理解・理解などについて私をますますサシと「恥」ことが大層である。このような観点から、本講義では、憲法を知ることが必要な、憲法の人権論分野における学説、判例、政府見解を解説する。特に、裁判官がいかなる基準で、人権侵害とも思える法律や政府行為の合憲性を判断すべきか（人権の法的保障）という点に焦点をおく。このため、議論が多い人権論分野を「憲法2」に回し、裁判官及び憲法訴訟について本科目で講義し、また、論争的な多岐の議論をこちらで講義する。重要な論点を更スツルも、考える力を養成して欲しい。	日本国憲法が保障する基本的人権をある程度理解した上で、具体的な事案について法的な思考過程を経た上で、単なる感情論や政策論ではない法的な結論を導出することができることを目標とする。	○	◎									○	○		

専門 応用 科目 II グ ロ ー バ ル 経 済	中級アジア経済史	東アジア（日本、中国、台湾、香港、朝鮮半島を指す）の経済発展について、歴史的・政治経済的な背景を含めて論じる。 東アジアは、近代以降、特に第二次世界大戦後に、ヨーロッパ・北米にキャッチアップする急激な経済成長を実現したという点で、アジアの経済発展のなかで中心的な役割を果たしてきた。本講義は、こうした東アジアの経済発展に焦点を当て、そのメカニズムについて学ぶ。	1. 東アジアの長期的な社会経済変動についての体系的な知識を身につけ、他者に説明することができる。 2. 現在の東アジア経済の諸問題について、歴史的文献を踏まえたより深い考察を行い、解決に取り組むことができる。 3. 現在世界の注目を集めている東アジア経済の基礎知識を身につけることで、諸外国の人々とのコミュニケーションを円滑に回り、グローバルに協働することができる。				○	◎					○			○
	中級国際環境経済	本講義では、一見すると理系の分野であると思われるがちな環境や環境問題と、実は色々な面でのつながりがある経済社会とのかわりを、最新の事例を豊富に用いつつ紐解いていきます。 秋学期は環境経済学の領域におけるミクロ／マクロ的な環境評価という最重要分野を中心にした内容です。こうした手法は企業や行政でも、基礎的なものが現状では用いられていますが、本講義では、今後ますます必要になる各手法の最新テクニックを身につけます。そして春学期で具体的に勉強した様々な経済活動と環境とのつながりを、学生の皆さんが自分自身で理解し判断できるように学習を進めています。	1. 現代の環境・環境問題と経済社会との関係について、多様な知識・教養を習得できる。 2. 経済発展と環境保護のあり方をめぐって、自らの意見を持つことができる。 3. 持続可能な経済社会について社会的責任を示すことができる。		○			◎				○	○			
	中級比較農業政策	本講義では、「日本農業」が抱える政治経済的背景や「世界の食料事情」を生み出す要因について、農業に関する制度的な課題や食料供給システムを担うアグリビジネスの動向に焦点をあてながら、解説します。食料・農業を通じて社会の仕組みがどのように形成されているのかを学び、諸課題に対する解決策を検討する実践力を涵養することを目的とします。	(1) 食料・農業政策に対する関心を持ち、食料・農業問題が生じる社会的状況とそれに対する政策的対応を体系的に理解し、説明できるようになる (2) 日本農業および世界農業の実象を、自らの生活と結びつけて捉えることができる (3) 実際の食料・農業問題に対する自分自身の関わり方を他人に伝えることができる		○			◎				○				○
	中級途上国経済	途上国経済分析の基礎には、市場や経済社会の構造分析が必要である。「市場と計画」という二元論をこえて、制度レベル（あるいは「中間システム」領域）の分析に重点をおいて、途上国経済の構造を把握する必要がある。この意味で、受講生は、各途上国の経済構造や制度の特殊性・独自性の分析を本講義から学ぶことができる。有効な開発政策をつくるために、どのように「特殊性」にアプローチすべきかを学ぶことができる。	理論編については、政治経済学的アプローチとはほかの学派とどう異なるかを理解すること、途上国経済の研究が先進国経済の研究とどう異なるのかについて理解することが到達目標である。現状分析編では、「途上国に関心がある」ではなく、「○◎という国の経済に関心があり、マクロ経済状況を説明できる」ようになること。政策編については、どの国でどのような政策が展開されているかを具体的に論じられるようになることである。					◎	○					○		○
	中級中国经济	中国经济の、主に市場経済化期以降の発展過程につき、経済学の基本的な用具を用いながら解釈、分析を行う。	中国经济を事例として一国の市場経済化過程に対する基本的な分析視角を身につける。					◎	○			○				○
	中級ロシア東欧経済	本講義は、ロシア経済を題材として国民経済計算データをもちいてマクロ経済状況を把握し、分析する手法を身につけることを目的とする。	国民経済計算の構造を理解し、構成要素間の関係を説明できる。 国民経済計算に現れる経済主体の経済行動の特徴を説明できる。 ロシアのマクロ経済の特徴を知っている、		○			◎					○			○
	International communication	ことばやコミュニケーションのシステムが、広告やコマercialを通じてどのように消費者や大衆にメッセージを伝える上での役割を果たすのかを理解する。	広告やコマercialが、歴史や社会的状況と関連して、あるいはさまざまな心理的な影響を与えながらコミュニケーションを成立させていることを理解し、現代社会を見る視点を持つことができるようになる。			○				◎			○			○
	中級世界経済 分野別演習	本授業は世界経済の構造的変化について、開発経済学の視角から議論を行い、レポートをまとめる。2022年度演習テーマは「アジア経済」である。	・経済学に関する自らの理解を確立するようになる。 ・アジア経済に関わる指標を自ら収集、分析することができるようになる。			○		○				◎		○		
	中級国際経済史 分野別演習	第一次世界大戦後の世界経済史に関して、本格的な自主学習を前提として、体系的かつ高度な理解を獲得する。	第一次世界大戦後の世界経済史全般、および任意の特定のトピック（世界恐慌、高度経済成長、スタグフレーション、グローバルゼーションなど）に関して、標準を上回る理解を習得する。複数の高度な学術書を読解した成果である、長文のタームペーパーを作成する。			○			○			◎				○
	中級アジア経済史 分野別演習	本授業は、「中級アジア経済史」の講義内容をベースとして、履修者が自らテーマを設定し、一次史料・統計データにもとづいた研究を行うことにより、アジア経済史に関するより高度な知識およびアウトプットの手法を身につけることを目的とする。	1. 東アジアを中心とするアジアの長期的な社会経済変動についての体系的な知識を身につけ、他者に説明することができる。 2. 現在のアジア経済の諸問題について、歴史的文献を踏まえたより深い考察を行い、解決に取り組むことができる。 3. 現在世界の注目を集めているアジア経済の基礎知識を身につけることで、諸外国の人々とのコミュニケーションを円滑に回り、グローバルに協働することができる。			○		○				◎		○		
	中級国際環境経済 分野別演習	本講では、環境経済学の分野での演習として、今年度は環境と経済・交通・都市をテーマに学内外での調査研究を行います。とくに、大手自動車会社の次世代交通（超小型電気自動車、電動自転車等）を用いて、横浜市・本学キャンパスでの活用が、経済・交通・都市に及ぼす様々な効果について、国内外の事例を比較検討しつつ、学内外のフィールドワークを通じて検証いたします。また、こうしたモビリティの社会実装についても考察いたします。	環境と経済・交通・都市等にかんする基礎的知識を身に付けた上で、企業・行政も関与する実務に関わりつつ、各種の実践的「知」を総動員して、事業の検証を行うことができる。		○			○				◎		○		
	中級比較農業政策 分野別演習	「中級比較農業政策」での学習内容に沿いながら、世界の農業・食料問題に関連して、より個別具体的なテーマ設定のもとで学習を進めることで、農業政策に関するより高度な理解や知見を獲得することにあります。	(1) 食料・農業問題に対して、何が問題になっているのか、その原因は何に起因しているのか、などを簡潔にまとめることができる。 (2) 食料・農業問題を、実際の現実状況を踏まえつつ捉えることができる。 (3) それらの成果を他人に、口頭、文章を用いて伝えることができる。					○				◎		○		○
	中級途上国経済 分野別演習	この演習への参加者は、次の2つの勉強スタイルから1つを選んで、勉強を進めていく。具体的な指導方法については、個別に履修生と相談して決める。スタイル1：「中級途上国経済」での学習内容に沿いながら、発展途上国が直面する開発課題について、具体的な国とトピックを決める形で学習と研究を進めることを支援する。スタイル2：授業で紹介する基本文献や古典的名著（英語文献含む）の原著を深く読んでいく。	スタイル1の場合、具体的な国・地域とトピックが決定し、それについての勉強、研究が進み、とくに既存研究のサーベイがある程度までできている場合、「可」である。スタイル2の場合、3つ以上の名著をしっかりと読み、細部をきちんと理解した上で、各本の全体の主要論点が理解できている場合、「可」に相当する。					○			○	◎			○	○
	中級中国经济 分野別演習	現代中国经济で観察される何らかの事象を題材に自らの仮説を立て検証を行う。その過程でデータ収集と分析の方法を修得する。自らの視角で現代中国经济を論じることができるようになる。	現代中国经济について自らの視角で論じることができるようになる。					○			○	◎			○	
	中級ロシア東欧経済 分野別演習	本演習では授業科目「中級ロシア東欧経済」に関連する研究課題について受講生が世界標準に即したレポートを完成できるようにレポート執筆を指導することを目的とする。 方法論としてロシア東欧の統計データを統計分析手法で分析することが入っていなければならない、	春学期期間中に終了可能なResearch questionを設定し、そのquestionに対する予想される回答を導き出し、回答が正しいことを客観的に支持するためのデータと方法を考え、分析を実行できる。		○			○				◎				○
	International communication分野別演習	ことばやコミュニケーションのシステムが、広告やコマercialを通じてどのように消費者や大衆にメッセージを伝える上での役割を果たすのかを理解する。	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学習を必要としている段階です。 広告やコマercialが、歴史や社会的状況と関連して、あるいはさまざまな心理的な影響を与えながらコミュニケーションを成立させていることを理解し、現代社会を見る視点を持つことができるようになる。			○		○				◎				○
	中級財政学	本講義は、ミクロ経済学・マクロ経済学を用いて財政制度、公共支出、課税理論、租税改革、社会保障、年金、公債、マクロ財政などの「財政学」の基本テーマについて解説する。ミクロ・マクロ経済学の基礎を習得した学生を前提とするが、必要に応じて講義の中で復習する。新聞やテレビニュースなどで報道されている現代日本における財政問題を理解できるレベルに到達することが本講義の教育目標である。 秋学期では、春学期で扱わなかった財政学のトピックスの他に、政治の経済分析に関する話題を取り上げる。	具体的な経済・財政政策に対するモデル等が与えられた時に、それを経済学的に分析をすることができる。	○				◎					○	○		
	中級公共経済学	公共経済学の理論を習得し、実際の公共政策に関する議論に活用できるようになること。	公共経済学の基本的な問題を自力で解くことができる。 学んだ知識を他人にわかりやすく説明することができる。	○				◎					○	○		
	中級労働経済学	労働経済学で学んだ内容をベースとして、労働市場、人的資本投資、労働移動、賃金プロファイルに関する標準的な理論と応用を学ぶ。データ上で観察される法則は、複数の理論により解釈可能であることを理解する。また、複数の解釈の中でどれが正しいかをデータから識別したり、政策の因果効果をデータから評価する基礎的な考え方について学ぶ。	①労働に関わる経済主体の行動や労働市場で観察される現象を説明する理論を理解している。 ②理論を現実経済の理解や政策に活用できる。 ③理論を私生活に活用できる。	○				◎					○			○
	中級現代社会福祉	晩婚化・晩産化・高齢化が進行する中で、日本社会は様々な政策課題を抱えています。本講義では、現在の社会福祉をめぐるニーズの現状と日本の政策対応の特質について、国際比較の視点から、具体的に理解することを目的とします。	現代社会の福祉レジームの特質について、現状に即した把握ができるようになる。				◎						○	○	○	

専門 応用 科目 目 Ⅱ	現代 日本 経 済	中級地域経済政策	本講義では、私たちの身近な存在である地域経済について、その見方や分析方法を講義します。経済学における考え方を、地域というより身近な対象を考える際にどう役立てるのが中心的な課題になります。「地域の経済成長」「地域の産業構造」、「地域間格差」「地域の雇用」、「他地域との交易」、「産業と産業との結びつき」「地域産業連関」「中小企業」「首都圏経済」「大学と地域」、「震災と地域」などをトピックとして取り上げ、論じます。経済学で用いられる様々な概念を地域経済の分析に導入することによって、より経済の理解が進み、その動きを身近に感じることができること。地域経済の見方の獲得を通じ、地域における問題・課題について自分の目で考えることが出来るようになることを達成目標とします。	1 経済学的方法を用い地域経済の見方を獲得する 2 各地域における産業ごとの特性を把握し、比較することができる													◎		○								
		中級地方財政	地方財政の基本的な理論と現在の日本の地方自治体が抱える問題についての検討を行う。「地方財政」の講義内容を前提に、予算、経費などの歳出面と、地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債などの歳入面についての現状や課題について講義を行うとともに、地方分権改革や行財政改革など現在の日本の地方自治体が抱えるに課題について検討する。	住民の暮らしに直結する地方自治体の財政活動について、専門的な見地からの分析を行うための基礎的な知識を獲得できる。						○								◎		◎							
		中級日本経済史	第二次戦間期から高度成長期に至る日本経済史について、中級レベルの解説を行う。周知のように、日本経済は大きな発展を遂げるが、その実態や要因及びそれが抱えていた問題点は具体的にどのようなものであったのだろうか。こういった点を念頭におきつつ、本講義では、経済政策、産業構造、金融構造、対外関係、労働、農業など日本経済の主要なテーマ毎に、まず基礎的な歴史的事実を確認し、その内容や要因について検討していく。	・中級日本経済史に関わる基礎的な歴史的事実を、秩序立てて他者に説明できる。 ・日本経済の発展のあり方とその要因についてそれなりに理解し、他者に説明できる。 ・日本経済が抱えていた矛盾や問題点についてある程度理解し、他者に説明できる。						○							◎							○			
		中級現代経済史	本講義では、主に20世紀後半の日本経済について、当該期の政治・社会などとの関係を踏まえつつ、歴史的な視点から学ぶことを目的とする。	20世紀後半における日本経済の歴史について、基礎的な内容を理解するとともに、他者に説明できる。						○								◎						○			
		Language communication and identity	Our social life is constructed to a great degree through language and communication. Communication breakdown is often a result of the gap between avowal (who we say we are), and ascription (who people think we are). We will explore this issue through critical reading of a number of articles related to the issues of language, communication and identity. Key theories and concepts will be introduced, such as representation, social identity, stereotyping, and cross-cultural communication.	Students taking this course will improve their holistic English language ability. They will learn to critically analyze issues from an intercultural perspective.							○								◎					○			
		中級財政学 分野別演習	この演習は、「中級財政学」の学習内容と関連させながら、国や地方自治体が抱える財政問題について、より具体的なテーマ設定のもとで学習を進めることで、財政に関するより高度な理解や知見を獲得することを目的としている。	「中級財政学」で扱う学習内容に関連させてテーマを設定し、具体的な事例と関係づけて分析を行うことができる。															◎			○	○				
		中級公共経済学 分野別演習	公共経済学の発展的トピックとして、様々な公共的意思決定の制度分析、制度設計、マーケットデザインについて、その理論と実践を研究する。	・公共経済学に関する高度なトピックについて学び、実践的な制度設計・市場設計がいかに可能か、あるいは困難であるかを説明できる。 ・論理的に記述されたレポートを作成する。																◎			○	○			
		中級労働経済学 分野別演習	労働経済学と中級労働経済学で学ぶ理論と識別戦略に関する知識を応用する力を習得する。具体的には、労働経済学分野の実証分析を立案し、遂行し、成果について英語で発表し、レポートを英語で執筆できる実践力を習得する。将来、海外の大学院博士課程に進学し、労働経済学の研究者やデータアナリストになるなどの高い目標を持つ学生に履修を薦める。	識別問題を意識し、入手可能なデータを用いた識別戦略を含む研究計画書を立案できる。																◎			○	○			
		中級現代社会福祉 分野別演習	この演習は、「中級現代社会福祉」の学習内容に沿いながら、地方自治体が抱える社会福祉問題について、より個別具体的なテーマ設定のもとで学習を進めることで、社会福祉に関するより高度な理解や知見を獲得することを目的としている。	「中級現代社会福祉」で扱う学習内容からテーマを設定し、具体的な事例と関係づけて分析を行うことができる。																◎			○	○		◎	
		中級地域経済政策 分野別演習	本講義では、地域経済を分析する道具としての産業連関表の見方と分析方法を学び習得することにより、ゼミ研究・卒業研究の研究・論文作成へと繋げることを狙いとする。	現代における地域経済が抱える課題について理解する 各地域の地域経済について地域産業連関分析を用いて分析できる																	◎			○	○		
専門 応用 科目 目 Ⅱ	現代 日本 経 済	中級地方財政 分野別演習	この演習は、「中級地方財政」の学習内容に沿いながら、地方自治体が抱える財政問題について、より個別具体的なテーマ設定のもとで学習を進めることで、地方財政に関するより高度な理解や知見を獲得することを目的としている。	「中級地方財政」で扱う学習内容からテーマを設定し、具体的な事例と関係づけて分析を行うことができる。														◎		○	◎						
		中級日本経済史 分野別演習	本演習の目的は、「中級日本経済史」での学習内容を発展させつつ、日本金融史の最新のトピックに関するテーマ設定の下、アーカイブに所蔵された一次史料を使用して研究を進めることで、日本金融史についてアドバンストなレベルでの知見を獲得することにある。	先行研究の整理とアーカイブ・図書館での史資料の調査を踏まえた課題レポートが作成できており、形式面で学術論文のスタイルを踏襲していること。																◎					○		
		中級現代経済史 分野別演習	本演習の目的は、「中級現代経済史」の学習内容と関連するテーマを各自で設定し、調査・研究を進めるとともに、最終的にはタム・ペーパーとしてまとめることを通じて、現代経済史に関するより高度な知見を獲得することにある。	設定したテーマに関する先行研究を適切に整理することができる。 収集した史資料に基づいて、タム・ペーパーを作成することができる。																	◎					○	
		Language communication and identity分野別演習	Our social life is constructed to a great degree through language and communication. Communication breakdown is often a result of the gap between avowal (who we say we are), and ascription (who people think we are). We will explore this issue by critical reading of a number of articles related to the issues of language, communication and identity.	Students should come to class, do the homework, and show that they have a basic understanding of the issues discussed.																◎					○		
		中級国際経済学	To gain a deeper understanding of the benefits and costs of "globalization", the gains from trade, and the causes and costs of trade protection. In the second half of the course, we will study the origins of trade surpluses/deficits and the basics of Exchange Rate theory.	Upon completion of this course, the student will have a deeper understanding of the gains from trade and effects of tariffs and other distortive trade policies. Also, the student will have a better understanding of the basics of trade deficits and surpluses and basic XR theory.																				○	○		
		中級国際金融	現代国際金融システムが抱える課題について講義する。	現代国際金融システムが抱える課題について理解することができる。																				○			
		中級現代外国為替論	本講義は、国際間の経済取引（財・サービス貿易、金融・資本フロー）を理解する上で必須となる為替レートの理論と現実を解説する。さらに、開放経済下のマクロ経済政策とその効果、為替レート制度の諸類型とそのメカニズム、さらにには国際通貨システムの現状と課題についても考察を行う。	為替レート決定モデル、為替レート制度の諸類型、開放マクロ経済学等に関する標準的な理論を理解する。練習問題の中の基本問題（定期試験の過去問題を除いたもの）を自分自身で解けるようになること、そして定期試験の過去問題を事前に解くことが必要である。この目標を達成すれば、成績が「可」となる（定期試験の成績が100点満点で60点以上となる）水準の力を身につけたことになる。																	◎			○	○		
		中級金融論	金融システムの仕組みと経済における役割（実物経済との相互連関）を、ミクロ経済とマクロ経済の両側面から講義する。	金融市場と金融機関からなる金融システムと实体经济の関係を理論的に理解する。具体的には、(1)金融制度では、(i)日本の金融市場の分類と役割、(ii)日本の金融機関の分類と役割、(iii)国際金融、市場型国際金融、直接金融と公的金融の特徴と役割、(iv)日本にはこれまでどのような金融機関があり、それをなぜ、どのように、どのような方向を目指して、変更されてきたのか、(v)中央銀行の金融政策の目標と手段、などを解説する。(2)金融のマクロ経済的側面として、(i)国内の貨幣の総量であるマネーストックと实体经济の関係、(ii)金融政策とは中央銀行によるマネーストックの管理を指すが、それはなぜ可能なのか、(iii)貨幣の需要量はどのように決まるのか、(iv)日本銀行が行っているようなマネーストックを増加させる拡張的金融政策は増大を回復させられるのか、(v)近年日本銀行が行っている非伝統的金融政策とは何か、などを解説する。(3)上記の金融理論と金融制度の学習の過程で、日本が経験したバブル経済とその崩壊、それに続く長期不況、アメリカのサブプライムローン問題に際する世界金融危機などの金融問題について、その原因、現在の状況、対応する金融政策を解説する。	○																	○					
		中級ファイナンス	この授業では、コーポレートファイナンスの基礎的な理論について学習します。この講義を通じて、企業がどのように投資を行うべきか、またどのようにその資金を調達すべきかについてコーポレートファイナンスの理論の観点から考察を行うことができるようになることを目的とします。	コーポレートファイナンスの理論を学習し、数値問題を解けるようになることを到達目標とします。																			○				
専門 応用 科目 目 Ⅱ	現代 日本 経 済	中級産業組織論	ミクロ経済学的应用分野の一つである産業組織論の理論を学びます。産業組織論を勉強することで、現実の経済、特に競争政策の効果を捉えるための一つの視点を持つことができるようになることが目標です。	講義でてきた数式の表わすことの経済学的な意味が理解できて、かつ計算問題を正しく解くことができるようになることが目標です。さらに、学術論文を正しく理解してレフェュリーレポートを書くことも目標です。																	◎						
		International trade policy	To introduce the basic concepts of international trade, with specific emphasis on theory and policy. This course will help the student understand the effects of tariffs and non-tariff barriers. The student will also learn about recent topics in international trade, such as foreign direct investment and production fragmentation, among others.	At the end of the semester, the student will be able to understand the impacts that different policies towards the adoption of tariffs and non-tariff barriers have in a given country and its trade partners. Besides this, the student will understand the importance that the foreign direct investments and the production fragmentation have in the contemporary economy.																				○			

金融貿易分析	中級国際経済学 分野別演習	In this guided study you will learn some tools and skills in "Empirical Trade" 実習貿易, that is, the "Data Science" of International Trade.	Learn several empirical methods in international trade.								◎				
	中級国際金融 分野別演習	国際金融の現状と課題に対する理解を深める。	国際金融の制度・政策的な課題について他者と議論できるようになる。			○	○				◎		○		
	中級現代外国為替論 分野別演習	本分野別演習では、中級現代外国為替論で学修した内容を踏まえて、タムペーパー作成に取り組むことが求められる。為替レートと国際マクロ経済学の理論が現実の経済問題をどのように説明できるのかについて、指定された課題に基づいて実証分析を行う。	中級現代外国為替論の授業内容を踏まえて、タムペーパーの課題を理解し、現実の経済データを用いて考察することができる。経済データは自ら収集して分析しなければならない。二次資料のみを使った分析（他の論文等に掲載された図表を借用した分析）は評価の対象とならない（単位を修得できない）。				○			◎		○	○		
	中級金融論 分野別演習	「金融論」と「中級金融論」の講義内容に沿って、より高度な内容を学習する。	金融論に関する高度なトピックスについて理解し、関連する現実の事象を論理的に論じることができる。				○			○	◎		○		
	中級ファイナンス 分野別演習	この演習では、コーポレートファイナンスに関する上級の教科書及び学術論文（主に英語）を輪読し、ファイナンス研究分野の進展を理解することを目指す。また、現存する様々な資本構成のモデルの課題を整理し、その修正・拡張の方向性を議論します。	コーポレートファイナンスの最先端の理論を理解し、それを報告を通じて他の参加者に理解させることができるようになり、レビューの形で学んだことをまとめられることを到達目標とします。				○			○	◎		○		
	中級産業組織論 分野別演習	ミクロ経済学的应用分野の一つである産業組織論の理論を学びます。産業組織論を勉強することで、現実の経済、特に競争政策の効果を捉えるための一つの視点を持つことができるようになることが目標です。	講義で出てきた数式の表わすことの経済学的な意味が理解できて、かつ計算問題を正しく解くことができるようになることが目標です。				○			○	◎		○		
	International trade policy分野別演習	To gain a deeper understanding of the benefits and costs of "globalization", the gains from trade, and the causes and costs of trade protection. In the second half of the course, we will study the origins of trade surpluses/deficits and the basics of Exchange Rate theory. This course will enable you to better understand the current US-China trade war, the CPTPP (a Free Trade Agreement) and many other current economic events. Students will also learn about the behavior of multinational firms, and also the economics of immigration.	Upon completion of this course, the student will have a deeper understanding of the gains from trade and effects of tariffs and other distortive trade policies. Also, the student will have a better understanding of the basics of trade deficits and surpluses and basic XR theory.				○			○		◎			○
専門応用科目Ⅱ経済数量分析	数理経済学	ミクロ経済学やマクロ経済学（とその応用）は、方法論的個人主義と呼ばれる方法を採用しています。すなわち、消費者や企業といった社会に参加する各主体（個人）の行動をまず考え、その結果として社会で何が起こるかを分析します。したがって、各主体がどのようにして行動を選択するかに関する分析が、すべてのお出発点となります。経済学では、このような個人の選択を、最適化理論によられる数学の道具を用いて分析します。例えば、消費者の選択を分析する際には、消費者は効用関数を最大化すると考えて分析を行います。本講義では、最適化理論に関する基礎的な知識を前提としうえで、個人の選択に関する基礎的な内容を扱います。最適化理論を用いて個人の選択を分析できるのは、「各主体がある関数を最大化するように行動する」と「あたかも考えられるときです。では、どのような場合にそう考えることができるのでしょうか。また、人々は何が起こるかかわらないという不確実性の下で意思決定を行います。そのような不確実性下の選択はどのように分析すればよいでしょうか。本講義では、教科書を用いながらこうした問題を漸次取り扱い、個人の選択に関する経済理論の基礎を理解することを目指します。	やや上級レベルの意思決定理論を理解し、易しい問題を解けるようになる。	○	○					◎					○
	中級数理統計	二変量正規分布の共分散と相関から始めて、多変量確率分布についての条件付き分布、条件付き期待値を学ぶ。線形モデルについて最小二乗推定量を学び、正規誤差の場合の回帰係数について推定と検定を理解する。また非正規誤差の場合の回帰係数と誤差分散の推定量について大数の法則と中心極限定理を学ぶ。弱正常性と強正常性を理解して、定常自己回帰モデルの推定について学び、非定常時系列解析として単位根検定を学ぶ。	(1) 二変量確率分布について共分散と相関、条件付き分布、条件付き期待値がわかる。 (2) 行列式、逆行列、正規直交化、固有値、固有ベクトルが理解できること。 (3) 正値定符号行列、対角化、射影の理論を最小二乗法に応用できること。 (4) 正規誤差と非正規誤差の場合の回帰係数の推定と検定がわかること。 (5) 定常時系列解析が理解できること：弱正常性と強正常性および自己回帰モデル (6) 非定常時系列解析の理解：単位根検定	○		○				◎		○			
	中級計量経済学	本講義では、データ分析に用いられる計量経済学・統計学の手法について習熟することを目的とする。	1.データ分析で利用される統計手法について簡単に説明できる。 2.学習した統計手法がどのようなデータ分析に利用される説明できる。 3.簡単なデータ分析の設定の下で学習した統計手法の具体的な計算ができる。	○		○				◎			○		
	中級経済統計	日本の統計調査の概要を把握し、統計に現れた数値の背後にある人々の行動を説明する経済理論について学ぶことを目的とする。また、日本の統計調査から得られる実際の数値を使って、日本の経済状況をグラフや表を用いて表現する方法を学ぶことを目的とする。統計ソフトとして主にRを使用する。	統計調査や経済理論の特徴を説明できる 統計ソフトを使いグラフや表を作成できる				○			◎		○			○
	中級ゲーム理論	ゲーム理論は社会における人々の相互依存関係を数学的に記述し、分析する学問である。この授業では、主に経済学で用いるゲーム理論の考え方や基礎知識を習得し、経済や社会の諸問題にどのように応用されているかを学ぶ。この授業では、ゲームの構造に不確実性のある「不完備情報ゲーム」と、その応用分野である情報・契約の経済学の基礎について学ぶ。	1.ゲーム理論の基礎的な考え方を身につける。 2.具体的なゲームの均衡（帰結）を導出することができる。	○		○							◎		○
	中級ミクロデータサイエンス	本講義は、(1)機械学習のデータ分析について、批判的に吟味できること、そして(2)プログラミングを発展的に実践するための知識・技能を体得することを学ぶことを目的とする。この講義は、とくに機械学習の手法に焦点を当て、モデルの適合度や情報量規準、そして再標本抽出法を学び、変数選択や局所回帰、ランダム・フォレストなどの具体的なアルゴリズムを学ぶ。データ分析の実践プロジェクトに取り組み、データ整理の方法を学ぶ。	モデル適合の考え方や複雑性の最適化、再標本抽出法などの手法を理解する。そして、分位回帰やカーネル密度推定などの分布推定、縮小推定量、スプラインと局所回帰による平滑化、決定木とランダム・フォレスト、また人工ニューラルネットワークと深層学習などのアルゴリズムを学ぶ。読みやすいプログラムを書くための疑似コード、変数と関数の名前づけ、関数とパッケージなどを学び、GitHubを実際において再現可能なデータ分析を実践する。	○		○				◎					○
	中級マクロデータサイエンス	【マクロデータサイエンス】に続き、データサイエンスにおける主要タスクである"予測"と"因果推論"のための統計手法について、マクロ経済変数の中でも特に我々の生活に深く関わる失業率とインフレ率を題材にしつつ学ぶ。	自らのクエスチョンが記述・予測・因果推論のいずれにあたるのかを判断できる。 時系列データの特徴をデータから把握することができる。 複数の予測モデルを推定し、予測結果を評価することができる。 因果効果の識別のための研究デザインを評価することができる。 分析の結果を他人にわかりやすく説明することができる。	○		○				◎					○
経済数量分析	Statistical theory and applications	The course attempts to provide a comprehensive introduction to models and methods most likely to be encountered and used by students in their careers in social sciences. During the course, you will learn statistical theories that applies to both engineering and social sciences. You will also learn Python programming. The course is in English.	1. Be able to build simple statistical models 2. Be able to apply Python programming or other open source programming tools 3. You are expected to understand to apply probability methods in social science research.	○						◎			○	○	
	数理経済学 分野別演習	効用最大化問題や費用最小化問題など、ミクロ経済学やマクロ経済学で使用される数学の問題の多くは、与えられた条件のもとで与えられた目的を達成する最適解を求める問題として表すことができる。本演習の目的は、これらの問題の最適解を導く上で必要不可欠な最適化理論を学ぶ。特に動学的最適化問題に着目し、変分法、最大値原理、動的計画法といった主要な解法について理解を深める。	最適化理論を理解し説明することが出来る。		○					○	◎				○
	中級数理統計 分野別演習	二変量正規分布の共分散と相関から始めて、多変量確率分布についての条件付き分布、条件付き期待値を学ぶ。線形モデルについて最小二乗推定量を学び、正規誤差の場合の回帰係数について推定と検定を理解する。また非正規誤差の場合の回帰係数と誤差分散の推定量について大数の法則と中心極限定理を学ぶ。弱正常性と強正常性を理解して、定常自己回帰モデルの推定について学び、非定常時系列解析として単位根検定を学ぶ。	(1) 二変量確率分布について共分散と相関、条件付き分布、条件付き期待値がわかる。 (2) 行列式、逆行列、正規直交化、固有値、固有ベクトルが理解できること。 (3) 正値定符号行列、対角化、射影の理論を最小二乗法に応用できること。 (4) 正規誤差と非正規誤差の場合の回帰係数の推定と検定がわかること。 (5) 定常時系列解析が理解できること：弱正常性と強正常性および自己回帰モデル (6) 非定常時系列解析の理解：単位根検定			○				○	◎		○		
	中級計量経済学 分野別演習	本講義では、データ分析に用いられる計量経済学・統計学の手法について習熟することを目的とする。	1.データ分析で利用される統計手法について簡単に説明できる。 2.学習した統計手法がどのようなデータ分析に利用される説明できる。 3.簡単なデータ分析の設定の下で学習した統計手法の具体的な計算ができる。			○				○	◎		○		
	中級経済統計 分野別演習	この演習の目的は、「中級経済統計」での学習内容に沿いながら、統計利用が抱える諸問題について、より個別具体的なテーマ設定のもとで学習を進めることで、統計利用・統計批判に関する高度な理解や知見を獲得することにある。	十分高度な調査報告書、レジュメ、課題レポートを提出							◎		○		○	
専門応用科目Ⅱ経済数量分析	中級ゲーム理論 分野別演習	ゲーム理論は社会における人々の相互依存関係を数学的に記述し、分析する学問である。この演習では、「中級ゲーム理論」の講義内容に沿って、不完備情報ゲームの理論や情報・契約の経済学について学ぶ。現実の様々な事象がどのように説明されるか、また現実ゲーム理論がどのように応用・実践されているかを課題演習形式で学ぶ。	ゲーム理論・情報の経済学に関する高度なトピックについて理解し、関連する現実の現象を説明できる。							○		○			

	中級ミクロデータサイエンス 分野別演習	分野別演習は、まだ論文を書いた経験のない学生が、「学術研究とは何を目指すものか」「論文を書くために大切な作法や工夫は何か」を学ぶことを目的としています。統計分析のみをしっかりできていても、どのように図表をつくり内容を言葉で表すかが分らないければ、読者に伝わらないからです。具体的には、共通の「論文の書き方」についての図表を選び、輪読会をします。	自ら選んだ図表について、課された章を読み、自分なりの解釈と疑問点を整理して発表をすること。そして、他の学生の発表について、建設的な議論の参加をすること。							◎	○	○		○		
	中級マクロデータサイエンス 分野別演習	『中級マクロデータサイエンス』の内容に並行する演習により、予測・因果推論のための統計手法をより深く学び、自由に使いこなせるようになることを目的とする。	自らのクエスチョンが記述・予測・因果推論のいずれにあたるのかを判断できる。 時系列データの特徴をデータから把握することができる。 複数の予測モデルを推定し、予測結果を評価することができる。 因果効果の識別のための研究デザインを評価することができる。 分析の結果を他人にわかりやすく説明することができる。							◎	○	○		○		
	Statistical theory and applications分野別演習	経済統計の一つ産業連関・国際産業連関分析を用い、中級レベルの応用分析がMS Excelで行えるようになることがこの分野別演習の目的である。	決めたテーマに関する調査、情報収集、分析、結果、結論付けを自分自身だけで理解するのではなく他の人に効率的かつ分かりやすく伝えること。							◎		○		○	○	
専門 応用 科目 Ⅱ	家族と法	法律上の夫婦を形成する制度である婚姻、その解消としての離婚、家族関係の拡大の中での親子等に関する問題を取り上げ、民法の条文の背景にある法原理と判例に現れた解釈を交差させながら、家族法の基本的論点の知識を習得する。また、死者の財産承継の制度である法定相続について学習し、さらに被相続人の私的自治の実現としての遺言及び両者のほごにあって私的生活保障と意思の尊重を目的とする遺留分について理解を深める。	親族法・相続法に関する基本的知識を習得し、客観的合理性と具体的妥当性の双方を備えた判断力を身につけることを目標とする。	◎				○						○	○	
	商法Ⅰ	会社法の基本構造について、①設立、②株式、③資金調達、④株主総会、⑤取締役会を中心に、理解することを目的とする。	1. 株式会社における基本的な法制度を理解している。 2. 株式会社を巡る諸問題を認識することができる。	○			○	◎						○		
	商法Ⅱ	会社法の基本構造について、①機関、②計算、③組織再編を中心に、理解することを目的とする。	1. 株式会社における基本的な法制度を理解している。 2. 株式会社を巡る諸問題を認識することができる。	○			○	◎						○		
	有価証券法	この講義では、有価証券、とりわけ手形・小切手、船荷証券、株券に関する法的な規律について解説する。さらに、現代的な論点として、証券の電子化についても取り扱う。	○有価証券に関する法的な規律を学ぶことができる。 ○証券の電子化、電子商取引等の現代的な問題について学ぶことができる。	◎					○					○		
	行政法	国や地方公共団体は、さまざまな分野にわたって活動しており、この分野に関する法律を横断的に理解する科目が行政法です。特に経済学部・経営学部では世の中の経済・経営活動を研究対象としますが、行政法はそのあらゆる場面に登場する重要な法律分野です。本講義では、このような行政法を理解する上で必須となる基礎的な考え方を学ぶと同時に、関連する具体的な事例などを理解することを狙いとしています。	行政法における基礎的概念を説明し、何が争点となるかを判別・裁判例その他関連する諸事例から適宜抽出できるようになることが期待されます。これによって、基本的なリーガルマインドを身につけるようにしましょう。	◎					○					○	○	
	経済法	本講義では、経済に関連する法律として独占禁止法や貿易法について学ぶことで、社会人になってビジネス活動を行う際に、法的な感覚を備えた人材となることを目指す。特に、自分が行っている商活動が経済法に照らしてどのように評価される行為か把握できるようにする。	・実際の経済活動が経済法上どのように評価されるかイメージできる。 ・ある経済活動に対してどの条文が適用されるかについて説明できる。 ・経済法上許されない経済活動とそうでないものを識別することができる。				◎		○					○	○	
	労働法	過労死、働き方改革、同一労働同一賃金など近時マスメディアにおいて取り上げられることの多い労働法上の現代的課題について、法的視点から分析・検討を行う。受講者には、現行の法規制や裁判例を正確に理解することだけでなく、具体的な事例について解決を導くことや立法論上の課題について理解することも求められる。また、各領域は相互に関連しているため、横断的な視点が必要となる。	法令及び判例の内容を一定程度理解し、法的課題に関する自分の意見を読み手や聞き手に分かるように伝えることができる。	◎					○					○	○	
	裁判法	裁判法に関わるテーマ・課題を自ら設定し、調査・検討を行った上で、論文を作成することを目的とする	自らの設定したテーマ・課題について、理解を深める。	◎					○					○	○	
	知的財産法	本授業では、「知的財産法」の主要法律につき、著作権法・特許法を中心に、概論的な講義を行う。 授業全体のうち前半の回は、著作権法に関する基礎的な講義を行い、これに関する小テストを行う。 また、後半の回では、特許法に重点を置きつつ、産業財産権法等につき、概論的な講義を行い、学期全体を通じて知的財産法に関する基礎的な理解・思考力を養うことをねらいとする。	知的財産法における主要概念・制度について知識を得ており、それについて一定の再現をすることができる。				◎		○					○	○	
	社会保障法	この講義では、①日常生活に密接にかかわる社会保障の法制度を理解し、生活の知恵を身につけること、②社会保障改革に目を向け、自分達の将来を主体的に選択できる有権者となれるための基礎知識を習得することを目指します。社会保障制度のなかでも社会保険制度を中心に取り上げ、制度の根拠にある法理念の理解を深めます。いかなる社会保障制度・政策を日本が選択するといいか、それぞれの頭で考えるための訓練をします。	・社会保障制度をめぐるメディアの報道を理解できるようになること。 ・社会保障関係の制度が、どのような法律を根拠に整備されているのかを理解し、六法を参照できるようになること。				◎		○					○		○
	民事訴訟法	民事訴訟のうち、主として第1審の判決手続について、基本構造を理解し、基礎的な知識及び考え方を修得できるようになることを目的とします。	・民事訴訟法の基本構造・制度趣旨・基本概念を理解し、正確に説明できるようになる。 ・民事訴訟法に関する主要な論争点についての判例及び学説を理解し、説明できるようになる。				○		◎					○	○	
	民法（債権各論・不法行為）	この授業は、私人間の基本法である民法の中で、契約を中心とした法律関係及びその裏返しとして契約に基づかない法律関係について学ぶ。具体的には、契約から発生する債権とは何かについて、債権の種類や債務不履行責任について、さらに債権の発生原因である契約とはどのようなものかについて、売買など民法の定める契約について、さらに、契約に基づかない債権の発生原因として、交通事故などの不法行為や不当利得に関する部分を扱う。	(1) 債権法・不法行為法の基本原理、基本構造を理解する。 (2) 基本的な事例に対して民法の条文を用いて一定の解決を提示できる。	◎					○					○	○	
	民法（親族・相続）	法律上の夫婦を形成する制度である婚姻、その解消としての離婚、家族関係の拡大の中での親子等に関する問題を取り上げ、民法の条文の背景にある法原理と判例に現れた解釈を交差させながら、家族法の基本的論点の知識を習得する。また、死者の財産承継の制度である法定相続について学習し、さらに被相続人の私的自治の実現としての遺言及び両者のほごにあって私的生活保障と意思の尊重を目的とする遺留分について理解を深める。	親族法・相続法に関する基本的知識を習得し、客観的合理性と具体的妥当性の双方を備えた判断力を身につけることを目標とする。 1. 親族法の基本的論点について正しく説明することができる。 2. 相続法の基本的論点について正しく説明することができる。 3. 特定の問題に対して、重要な判例、学説を正しく説明し、口頭及び文書によって自らの見解を踏まえた論述を行うことができる。	◎					○					○	○	
	会社法Ⅱ	会社法の基本構造について、①機関、②計算、③組織再編を中心に、理解することを目的とする。	1. 株式会社における基本的な法制度を理解している。 2. 株式会社を巡る諸問題を認識することができる。	○			○	◎						○		
	家族と法 分野別演習	1. 親族法・相続法に関する民法の重要論点を、判例その他の資料をもとに研究する。 2. 婚姻、親子、相続に関する法的知識を確実に習得し、実社会に生起する具体的な事件とその法的決裁について理解を深める。	1. 民法の親族、相続に関する問題のうち自己の関心のあるテーマを一つ決めて、判例や文献資料を調査し、その内容を説明することができる。 2. 家族の法律問題について、判例や学説を踏まえながら自らの意見を示すことができる。									◎	○	○		○
	商法Ⅰ 分野別演習	商法Ⅰの理解を深めることを目的とする。	1. 株式会社における基本的な法制度を理解している。 2. 株式会社を巡る諸問題を認識することができる。					○	○			◎	○			
	商法Ⅱ 分野別演習	商法Ⅱの理解を深めることを目的とする。	1. 株式会社における基本的な法制度を理解している。 2. 株式会社を巡る諸問題を認識することができる。					○	○			◎	○			
	有価証券法 分野別演習	この授業は、講義科目「有価証券法」で取り扱うテーマ（手形法、電子記録債権、仮想通貨など）について、より深く学ぶ意欲のある学生を対象に開講するものです。 最終的には、小論文（リサーチペーパー）を執筆し、懸賞論文等に応募することなどを目標としています。	授業の内容について正確に理解し、他者に対して自説を説得的に論述できる能力を備えていること。					○	○			◎	○			

行政法 分野別演習	行政法における現代的課題を自ら発見し、法的視点から分析・検討を行った上で、課題解決の方向性を説得的に示す論文を作成することを目的とする	受講者が関心を抱いた社会問題に関連する行政法の諸問題について、正確に理解し、その意義や課題について自分の言葉で説明ができる。						○			◎	○	○		
経済法 分野別演習	・独占禁止法の重要な論点について、判例を中心に分析し、自らの考えを深める ・海外の独占禁止法や、国際的な経済に関する法律について学び、世界的な経済法の動向を把握する。	・経済法の実際の運用に対して批判的に評価を行うことができる ・法的な判断に対して論理立てて議論ができるようになる ・経済法に基づく判断に対して根拠を示すことができる			○				○		◎		○		
労働法 分野別演習	労働法における現代的課題を自ら発見し、法的視点から分析・検討を行った上で、課題解決の方向性を説得的に示す論文を作成することを目的とする。	口頭発表やレポートにおいて、自分の意見を説得的・論理的に表現できる。									◎	○	○		○
裁判法 分野別演習	裁判法に関わるテーマ・課題を自ら設定し、調査・検討を行った上で、論文を作成することを目的とする。	自らの設定したテーマ・課題について、理解を深める。						○			◎	○	○		
知的財産法 分野別演習	本授業では、受講生が知的財産法に関するテーマを主体的に選択し、これに関する論文を執筆・報告を行うことを目的としている。	知的財産法について理解をしつつ、先行研究について適正な調査・反映を行い、自身の見解も含め適切に整理された論文が完成していること。						○			◎	○	○		
社会保障法 分野別演習	社会保障制度は高齢社会において制度改革を常々迫られている。本授業では、制度の背景にある哲学を考えながら、さらにもう一歩踏み込んで社会保障法を学んでいく。 社会保障法関連の講義を受講した者または受講中の者が、主体的により深く社会保障法について学ぶことを本授業は目的とする。	教員や他の受講者と、とりあげたテーマについて果敢に討議できるようになること。									◎	○	○		○
民事訴訟法 分野別演習	具体的な判例・問題の検討を通じて民事訴訟法についての理解を深めることを目的とします。	・民事訴訟法に関する論争点についての判例及び学説を調査・理解し、正確に説明できるようになる。						○		○	◎		○		
民法（債権各論・不法行為） 分野別演習	民法分野における判例・学説などを検討する。	民法における特定の論点について理解を深める。						○			◎	○	○		
民法（親族・相続） 分野別演習	1. 親族法・相続法に関する民法の重要論点を、判例その他の資料をもとに研究する。 2. 婚姻、親子、相続に関する法的知識を確実に習得し、実社会に生起する具体的な事件とその法的解決策について理解を深める。	1. 民法の親族、相続に関する問題のうち自己の関心のあるテーマを一つ決めて、判例や文献資料を調査し、その内容を説明することができる。 2. 家族の法律問題について、判例や学説を踏まえながら自らの意見を示すことができる。									◎	○	○		○
会社法Ⅱ 分野別演習	会社法Ⅱ（商法Ⅱ）の理解を深めることを目的とする。	1. 株式会社における基本的な法制度を理解している。 2. 株式会社を巡る諸問題を認識することができる。					○	○			◎	○			
課題プロジェクト演習 Applied Economics	The objective of the course is to develop the ability of economic thinking by exploring various issues and important concepts in economics. The topics cover the model of demand and supply, consumer behavior, firm's production and cost, competitive markets and efficiency, market failures, public policy, key macroeconomic variables, economic growth, and so on. Though the course is introductory, students will have an opportunity to be exposed to the recent development of economic research and its applications to current economic issues. The course is particularly suited for non-native speakers who are willing to study economics in English.	1. Students acquire economic thinking and basic economic theory. 2. Students improve their English communication skills. 3. Students learn basic economic concepts in English.			○	○				◎					○
課題プロジェクト演習 Public Policy	The aim of this project is 1. to be able to do a presentation in English 2. to understand the relationship between happiness and public policies, and economics. 3. to be able to explain/criticise a public policy from some findings of happiness research in English.	An understanding of a few theoretical/ideological backgrounds of the public policy. An ability to explain/criticise a public policy from a finding of happiness research in English.			○	○				◎					○
英語討論（欧州）	Global Applied Economics Forum is designed to give YNU students who have experience on previous GSE programs to participate in an intensive, project-based forum where they can make use of the skills they have learned to date. They use real-life academic English in an authentic setting. The main part of the program is presentation and discussion on a set theme, often related to Economics. GAEF also includes visits to companies and local government bodies, as well as cultural and academic activities.	Students will build on the core skills attained in previous GSE programs, developing their abilities in Academic Writing, Reading, and Presentation. They will carry out further research on the overseas location, applying economic theory and learning to the topics covered.			○	○						◎			○
英語討論（アジア）	アジア英語討論会は、アジアの協定校を相手先とした学部学生の国際交流プログラムである。このプログラムは、本学学生10名程度が協定校を1週間ほど訪問するSV（Short Visit）と、協定校学生10名程度が横浜国立大学を1週間ほど訪問するSS（Short Stay）からなり、滞在期間中に特定のテーマに関する英語での討論会を中心とした相互交流を行う。これらの活動を通じて、アカデミックなプレゼンテーション・ディスカッション能力を身に付けると同時に、実践的な国際コミュニケーション能力の向上をはかることが目的である。	専門テーマについて、複数の言語での講義を通じて、多面的な理解を得る。 実践的教育の側面において、テーマ理解・プレゼンテーション・ディスカッション等に加えた国際的なコミュニケーション、異文化理解といったスキルの育成を図ることができる。 準備期間および本プログラム実施期間において、語学水準や外国語でのプレゼンテーション等の能力を向上させる。			○	○						◎			○
Applied Economics Intensive	Students who have completed the four-week summer intensive course overseas are eligible to take this course. Before leaving Japan, the course will consist of weekly meetings to work on holistic English skills and familiarise ourselves with topics related to UK culture and society. On your return, the course is based on reflective practice, exploring the topics that were covered on the summer leg and providing follow-up exercises. The summer school at University of Edinburgh has three streams: (1) Topics in Economics (2) UK Culture & Society (3) Academic English Skills	Students will build on the core skills attained in the summer session, developing their abilities in Academic Writing, Reading, and Presentation. They will carry further research on the overseas location, applying economic theory and learning to the topics covered.			○	○						◎			○
インターンシップ	企業や官庁において働き、様々な体験を通して仕事の現場を知ることとは、大学で学ぶことの意義を再発見し、卒業後の道路を考えるうえでも有意義である。さらに、インターンシップの体験は就業意欲を高め、就職活動にも活かされることが期待できる。そうした観点から、経済学部ではインターンシップの経験を単位認定する。	1. 企業や自治体などにおいて実務経験を積むことで、社会に対する興味や関心を高め、経済学の学習に役立てる。 2. 就労体験をすることで、就業意欲を高め、進路の選択や就職活動に役立てる。 3. 大学で得られない実社会での様々な体験を通して、人間的に成長する機会を得る。				○					◎		○		○
地域イノベーション政策	経済はグローバル化する一方で都市や地域といったローカルな拠点があって安定し、修正され、進化していくという現実が重要です。人間の基本的な生活単位である地域、そして該地域の中核となる都市は、経済・社会・政治・環境・文化等の諸問題の発生「現場」であると同時に、問題に対応し、時には新たな突破口が見出されていく課題解決・発展の単位です。それは、ローカルでありながら、グローバル化の影響を受けて変化する受発拠点であり、他方で、グローバルに影響を与える発信拠点でもあります。地域イノベーション政策は、こうした都市・地域を学究の基本単位に据えて、その現代経済における意義や可能性を研究する「地域経済学」の基礎を講義します。	・ 「履修目標」の内容について、講義や教科書の範囲内で良いので整理してみましょう。 ・ 何かスキルや知識を身につけるというより、ものごとを考える機会とみて欲しい。例えば、経済や社会に対する見方をアップデートし、今後の研究分野や道路を考えるきっかけになれば幸いです。		○		○							◎		○
財務行政の現場と経済	財務局は、財務省の総合出先機関として財政や国有財産等に関する施策を行うとともに、金融庁からの委任を受け、地域金融機関等の検査・監督を行うなど、地域住民の暮らしに密着に関連する業務を行っている。 本講義は、財政、金融、証券及び国有財産に関する財務省・財務局の業務を学び、地域に根差した国の行政について理解を深めるとともに、財務省の業務を学ぶことで国のファイナンス（財政）を、金融庁の業務を学ぶことで民間のファイナンスの仕組みを理解し、講義で学んだ内容について、自分なりの意見や考えを述べることを目標とする。	1. 財政、金融、証券及び国有財産に関する財務省・財務局の業務を学び、地域に根差した国の行政について知識を得ることができる。 2. 財務省の業務を学ぶことで国のファイナンス（財政）を、金融庁の業務を学ぶことで金融機関や証券会社など、民間のファイナンスの仕組みを理解することができる。			○	○							◎		○
関税政策と税関行政	税関は、財務省の地方支分部局として、輸出入貨物の通関や関税等の徴収、不正貨物や偽造、テロ関連物品等の密輸出入の取締りのほか、貿易の円滑化に向けた取組みなど、国際貿易に密着した様々な業務を行っている。 本講義では、財務省関税局及び横浜税関の職員を講師として、輸出入貨物の通関手続や密輸出入の取締り、貿易統計などの税関行政のほか、関税の役割や仕組み、経済連携協定（EPA）など関税をめぐる国際的な動向等の関税政策について、それぞれの分野の担当職員が実務経験を生かして解説する授業を行い、国際貿易の健全な発展と安全・安心な社会の実現に向けた我が国の関税政策・税関行政について理解を深め、自らの意見や考えを述べることを目標とする。	1. 関税の役割や仕組み、関税をめぐる国際的な動向等、関税政策の概要や取組みを理解することができる。 2. 輸出入貨物の通関手続や密輸出入の取締り等、税関行政の概要や取組みを理解することができる。			○	○							○		◎
社会における実践体験～富丘会メッセージ～	本学卒業の講師とゲストスピーカーが学生時代に何を目指し、何を基に職業を選択し、その選択した職業の実際の職務はいかなるものであったか、又いかなるものであるかを講義する。講義を通して知識・教養を高め、コミュニケーション能力を深化させることを目指す。	多くの業界における職務を知識・教養として一通り理解し、自己の性格が向いている職務を自己分析するとともに講義により的確に思考でき、いかなる講師とも質問等を通じコミュニケーションできる力を発揮できる水準に到達する。		○		○							◎		○

グローバルビジネス実践論	世界経済が益々グローバル化し、それに合わせるように日本企業はマーケットの拡大を図る為に、海外進出へのスピードを進めている。買収や文化を持った人達とのコミュニケーションを行う力や海外での厳しい生活環境に順応できる所謂「グローバルに活躍できる人材」が今後益々必要とされる時代になった。本講座では、主として海外ビジネスで活躍した15人の講師が、ビジネスの現実、経済の仕組み、企業活動の実態、海外駐在員の遣り甲斐と苦労等を体験の中から教授する。本講座は、実業界での活躍を目指す学生諸君にとって一つの指針になることを目指している。又、就職活動を開始する学生にとっては、業界や仕事を広く知るうえで参考になる講義である。	講師陣の実社会、海外勤務等の経験を通じて理論だけでなくい実務の世界を学生諸子に肌で感じてもらうことを目標とする。（a）各講師の様々なジャンルの実務経験を吸収することにより、将来職業を選択する際の指針とする。（b）授業内容を理解しレポート内容に矛盾がないか確認する。（c）ウィンウィンの関係構築を提言できるレベルになればしめたものです。その延長にビジネスがあります。（c）個人、日本企業がG l o b a l人材・企業になる為のハードルがどれだけあるかを理解する。															◎	
経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	本講義では、「企業組織と事業内容を説明し、企業を取り巻く経営環境を理解してもらう。また学生にとっては将来の就業先の選択肢を増やすための前提として各業界の理解を深める。」ことを目的とする。 上記の目的を果たすために、本講義では、企業トップの経営層の方を外部講師として招聘し、企業の経営課題の解決策や企業の成長に向けた方策を、実務経験に基づいて講ずる。	多くの業界における職務を知識・教養として一通り理解し、自己の性格が向いている職務を自己分析するとともに講義により的確に思考でき、いかなる講師とも質問等を通じコミュニケーションできる力を発揮できる水準に到達する。			○										○		◎	
キャリア形成論	実務経験として、電機メーカー「ソニー」の総務・人事部門で35年間、採用・社員研修・リストウまで多くの関連業務を経験。企業で働くこと、働き上げることの楽しさも厳しさも経験してきたことを生かして、 ①「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上、②職業人としての資質・能力を高める、③自立意識の高揚と豊かな人間性の育成 以上3つの項目に注視して講義を行います。	①授業の出席率60%以上 ②3回の小レポートの提出			○										○		◎	
経済学のための数学入門	近年、経済学部の特門科目を必修する上で、数学の知識は不可欠となっている。 本講義は、高校数学と大学数学のギャップを埋め、必要最低限の数学の知識の獲得・論理的な思考を養うことを目的とする。	a. 講義で学んだ定義や定理を理解する。 b. 条件付き最適化問題を内容を理解した上で解くことができる。 c. 講義で学んだ定義や定理の概念を人に伝えられる。	◎		○				○						○			
公法特別講義・憲法	小学校以来、多くの人が「日本国憲法」を学んできたと思う。しかしそれは主として「戦争の放棄」や「主権在民」「基本的人権の尊重」などの憲法の「精神」の抑き込まれ、妙に「三権分立」の強調された図表の暗記などが中心だったのではなかろうか。だが、憲法は実際の政治や裁判における具体的な規範であり、国の「最高法規」であり、これに反する公権機関の行為は許されないというものである。決して単なる「お題目」ではない。このような日本の基本法の解釈・運用などに携わってはまずキケンと「知る」ことが大切であろう。このような観点から、本講義では、最低限知ることが必要な、憲法の人権各論分野における学説、判例、政府見解を解説する。特に、裁判所がいかなる基準で、人権侵害とも思える法律や政府行為の合憲性を判断すべきか（人権の司法的保護）という点に力点を置く。このため、指論論も多い人権総論分野を「憲法2」に直し、裁判所及び憲法訴訟について本科目で講義し、また、論争的な9条の議論もこちらで講義する。重要な論点を覚えつつも、考える力を養成して欲しい。	日本国憲法が保障する基本的人権をある程度理解した上で、具体的な事案について法的な思考過程を経た上で、単なる感情論や政策論ではない法的な結論を導出することができることを目標とする。	◎		○				○							○		
民法特別講義・企業取引法	この講義では、商法の中でも、商法総則、会社法総則および商行為法に相当する部分を取り扱う。具体的には、企業活動のうち、対外的な取引に関する私法ルールと企業活動を支える物的・人的インフラについて解説することを目的とする。	○企業取引に関する商法、会社法の内容と、その適用の実態を学ぶことができる。 ○法的思考（事実に対して規範を当てはめて問題を解決する思考）を実践することができる。	○						○		◎				○			
Principles of Economics	The purpose of this course is to help students learn the fundamental lessons of economics and to show how such lessons can be applied to everyday life. Students will learn the key concepts and principles of economic theory. This course is intended to be an introductory course to the economic theory for students with no prior background in economics. You will learn the basics of the economic terms, will be able to distinguish between economic policies, and understand the foundations of the economic analysis. Students with poor command of English will have chance to improve their language skills.	In order to obtain a "C" grade, students must answer no less than 50% of the questions in the final exam.	○						◎		○							○
International Political Economy	The course aims to provide an understanding of how political processes shape the economic system and how transactions within the global economy in turn shape the political dynamics. Students will learn the logic of the economic models relevant to each issue area, and how the distributional consequences of cross-border economic activity shape domestic and international politics. Also, students will learn how to use models of political competition to explain important historical events and how to relate the theoretical economic and political models to contemporary policy debates. The instructions will be given in simple English, avoiding complex concepts and terms to encourage students with different levels of English language ability.	To achieve the Learning Objectives, students are required to achieve a minimum of 50% performance during the final test and have satisfactory attendance.	○						◎		○							○
Visiting Scholar Guest Lecture	In this course, students will be introduced to the principles which undergird the American regime. This includes the major structural and operating features of the American system of government, and what legitimizes their basic rights and privileges in a representative democracy. It is essential to begin by examining first principles that are foundational to the American administrative state. These principles are set forth in the Declaration of Independence, proceeding by degrees thereafter to a consideration of the Confederation period, the Constitutional Convention, the ratification debates (The Federalist Papers), and other prominent legal events that decisively shaped the republic during its opening decades. With these foundations firmly in mind, we will then examine in greater detail the structure and history of the nation's uniquely constituted form of government, with particular emphasis on the importance of federalism and the separation of powers. Each of the federal branches will be studied, including the operations of the federal system, and students will understand how the U.S. Constitution establishes the separation powers and how these powers are simultaneously cooperative and competitive. How the U.S. Constitution protects civil liberties of American citizens will also be explored.	Learning Objectives indicate the minimal level of mastery that students are required to achieve. Students who have met the Learning Objectives for the most part will earn a grade of "C".			○		○		○									◎
English for Academic Purposes (EAP)	In this course you will: 1) improve your spoken fluency through authentic interaction 2) develop expository essay-writing skills and 3) increase your intercultural awareness through exploration of weekly topics.	In this course, students: (1) improve their spoken fluency through authentic interaction (2) develop academic essay-writing skills (3) increase their intercultural awareness through exploration of academic topics.			○		○		○									◎
English for Economics and Business (EEB)	経済やビジネスに関連した英語を理解するための語彙力・スキルを向上させることを目的とする。	主として経済関連の英文（教科書ではなく実際の記事等）を読み込むための態度が理解できるようになること。主としてTOEIC対応のビジネス英語のリスニング力を向上させること。一般的な語彙力を増強する。			○		○		○									◎
Advanced EAP A	This course focuses primarily on the background to, and critical issues relevant to, recurring or important topics in the news. The selection of course topics depends on what events and situations are occurring in the economy and in society in general as the course is taking place, and therefore are not listed in advance. The course also devotes time to learning how to write a referenced essay.	Students will demonstrate a certain degree of understanding of contemporary issues and demonstrate overall awareness of what is happening in the economy and society in general. Students will demonstrate a certain degree of understanding of how past events, decisions, and circumstances have influenced current happenings. Students will demonstrate a limited level of mastery of the fundamentals of writing referenced essays.			○		○								◎			○
Advanced EAP B	This is a CLIL course on 'UK Studies.' We will consider various topics related to contemporary UK society and compare with Japan, to equip you with the vocabulary and discourse skills to negotiate academic discussion in cross-cultural exchange.' There will be a focus on critical reading, academic discussion, and academic essay writing.	Students will come to class at least 70 percent of time and do the homework. They will discuss the topics using appropriate academic language. They will write a referenced academic essay that meets all the criteria of the brief.			○		○								◎			○
Advanced EEB 1	In this course, you will learn how to form a positive relationship in the era of diversity. Developing a positive relationship in an office is not only vital for your success but also for happiness. However, strangely enough, we do not explicitly learn how to do so. Based on actual cases on communication issues, you will read, discuss, write, and present your ideas to solve communication issues. In the process, you will deepen your knowledge on the topic and improve your assertive communication skills, such as small talk, presentation, and conflict management.	Come to class on time. More than six absences will lead to a failure. Complete group projects and submit one report. Attend communication contests and presentations held in class.			○		○								◎			○
Advanced EEB 2	In this course, you will learn how to form a positive in the era of diversity. Developing a positive relationship with someone that matters to you ? family members, relatives, and intimate others is crucial for your happiness. However, strangely enough, we do not explicitly learn how to do so. Based on actual cases on communication issues, you will read, discuss, write, and present your ideas to solve the problems. In the process, you will deepen your knowledge on the topic and improve your assertive communication skills, such as active listening, setting boundaries, and conflict management.	1. Come to class on time. More than six absences will lead to a failure. 2. Complete group projects and submit one report. 3. Attend communication contests and presentations held in class.			○		○								◎			○
池島ゼミナールⅠ	「食と農」についての興味を持つことからはじめ、自分の日常生活、さらには、住んでいる地域、日本および世界に至るまでに発生している食料農業問題、および、地域経済問題に焦点をあて、「何が問題なのか」から「どうしたら解決できるのか」までを論理的、科学的に考えることを目的とします。	(1) 文献資料に記載されている内容・著者の意図を正確に読み取り、他人にわかりやすく伝えることができる。 (2) 食料農業問題、地域経済問題にどのような課題が存在しているのか、自分の言葉で説明することができる。 (3) 調査研究の企画準備を共同で行いつつ、最後まで実行する遂行力を習得することができる。 (4) 単独もしくは共同による報告書を作成することができる。			○							◎			○			○
池島ゼミナールⅡ	「食と農」についての興味を持つことからはじめ、自分の日常生活、さらには、住んでいる地域、日本および世界に至るまでに発生している食料農業問題、および、地域経済問題に焦点をあて、「何が問題なのか」から「どうしたら解決できるのか」までを論理的、科学的に考えることを目的とします。	(1) 文献資料に記載されている内容・著者の意図を正確に読み取り、他人にわかりやすく伝えることができる。 (2) 食料農業問題、地域経済問題にどのような課題が存在しているのか、自分の言葉で説明することができる。 (3) 調査研究の企画準備を共同で行いつつ、最後まで実行する遂行力を習得することができる。 (4) 単独もしくは共同による報告書を作成することができる。			○							◎			○			○
石山ゼミナールⅠ	戦後進展したヨーロッパ統合を中心として、戦後の欧米諸国の経済に関する専門研究書を講読し、その内容を的確に理解することができるようになる。さらに、それを自分の言葉や文章で表現し、それに対する独自の見解も発表することをめざす。これらの戦後欧米経済史の検討作業を通して、現在の日本や世界の政治・経済状況に関する観察力を向上させる。	戦後の欧米諸国の経済政策に関する専門研究書を講読し、その内容を的確に理解することができるようになる。これらの検討作業を通して、現在の日本や世界の政治・経済状況に関する観察力を向上させる。以上の学習により、a.知識・教養やb.思考力を習得するとともに、c.コミュニケーション能力を高めることができる。ゼミでの報告の分担や運営への参加によって、d.倫理観・責任感も身につけることができる。										◎		○		○		○
石山ゼミナールⅡ	戦後進展したヨーロッパ統合を中心として、戦後の欧米諸国の経済に関する専門研究書を講読し、その内容を的確に理解することができるようになる。さらに、それを自分の言葉や文章で表現し、それに対する独自の見解も発表することをめざす。これらの戦後欧米経済史の検討作業を通して、現在の日本や世界の政治・経済状況に関する観察力を向上させる。	戦後の欧米諸国の経済政策に関する専門研究書を講読し、その内容を的確に理解することができるようになる。これらの検討作業を通して、現在の日本や世界の政治・経済状況に関する観察力を向上させる。以上の学習により、a.知識・教養やb.思考力を習得するとともに、c.コミュニケーション能力を高めることができる。ゼミでの報告の分担や運営への参加によって、d.倫理観・責任感も身につけることができる。										◎		○		○		○
伊集ゼミナールⅠ	このゼミナールでは、財政学あるいは地方財政論に関する研究を行う。経済のグローバル化の進展や人口の高齢化など、私たちを取り巻く環境が大きく変化している現代社会において、改めて政府あるいは公共部門の役割が問い直されている。そこで、近年の財政構造改革や地方分権改革などをテーマとして取り上げながら、財政のあるべき姿を検討する。	財政学における基本的な概念を理解し、日本や諸外国における財政問題について、その論点を把握する。	○									○			○	○		

伊集ゼミナールⅡ	このゼミナールでは、財政学あるいは地方財政論に関する研究を行う。経済のグローバル化の進展や人口の高齢化など、私たちを取り巻く環境が大きく変化している現代社会において、改めて政府あるいは公共部門の役割が問い直されている。そこで、近年の財政構造改革や地方分権改革などをテーマとして取り上げながら、財政のあるべき姿を検討する。	財政学における基本的な概念を理解し、日本や諸外国における財政問題について、その論点を把握する。	○					○					○	○		
居城ゼミナールⅠ	地域経済を分析するための様々な視点や、分析方法を学ぶ。身近な地域として横浜・神奈川経済などを主に対象とする。それらにもとづいた課題実習とプレゼンテーション、そしてディスカッションを行う中で、地域経済を理解するにあたっての問題意識や基礎的な能力を獲得することを狙う。 地域経済について現状をより鮮明に持つてもらうため、現場の声を聞くフィールドワークや実務家を外部講師として演習に招くことも予定している。	地域経済の現状に関する問題意識を獲得すること 地域経済の資料の見方・分析手法を身につけること 課題に対しての論理的なプレゼンテーションを行うこと 他の人の発表に対してディスカッションを行うことができるようになること	○				○						○	◎		
居城ゼミナールⅡ	地域経済を分析するための様々な視点や、分析方法を学ぶ。身近な地域として横浜・神奈川経済などを主に対象とする。それらにもとづいた課題実習とプレゼンテーション、そしてディスカッションを行う中で、地域経済を理解するにあたっての問題意識や基礎的な能力を獲得することを狙う。 地域経済について現状をより鮮明に持つてもらうため、現場の声を聞くフィールドワークや実務家を外部講師として演習に招くことも予定している。	地域経済の現状に関する問題意識を獲得すること 地域経済の資料の見方・分析手法を身につけること 課題に対しての論理的なプレゼンテーションを行うこと 他の人の発表に対してディスカッションを行うことができるようになること	○				○						○	◎		
氏川ゼミナールⅠ	当ゼミでは、まず各アプローチを輪読でより深く学びつつ、同時に現実の社会で引き起こされている環境問題・環境政策について、各メディアを活用し各自の情報収集により広く把握します。また、具体的な課題・テーマを、各グループワークでの他者との対話を通じて析出し、その解決策について検証していきます。 さらに環境問題・環境政策には様々な主体がかかわってくるため、そのコミュニケーションを重視し、とくに国内外でのフィールドワーク・ディスカッション等を通じて相互理解を推進し、問題解決能力を高めていくことを目的とします。	環境と経済の関係についての分野を主軸として、以下の目標を設定します。 ①文献・資料の検索能力、データ・情報収集能力、問題発見・課題探求能力を高める。 ②文献の読解力・理解力、文書作成に際する論理構成力およびデータ処理と分析能力を向上させる。 ③国内外でのプレゼンテーション、コミュニケーション、ディスカッションの能力を高める。					○						○	◎	○	
氏川ゼミナールⅡ	当ゼミでは、まず各アプローチを輪読でより深く学びつつ、同時に現実の社会で引き起こされている環境問題・環境政策について、各メディアを活用し各自の情報収集により広く把握します。また、具体的な課題・テーマを、各グループワークでの他者との対話を通じて析出し、その解決策について検証していきます。 さらに環境問題・環境政策には様々な主体がかかわってくるため、そのコミュニケーションを重視し、とくに国内外でのフィールドワーク・ディスカッション等を通じて相互理解を推進し、問題解決能力を高めていくことを目的とします。	環境と経済の関係についての分野を主軸として、以下の目標を設定します。 ①文献・資料の検索能力、データ・情報収集能力、問題発見・課題探求能力を高める。 ②文献の読解力・理解力、文書作成に際する論理構成力およびデータ処理と分析能力を向上させる。 ③国内外でのプレゼンテーション、コミュニケーション、ディスカッションの能力を高める。					○						○	◎	○	
大森ゼミナールⅠ	家族の経済学、恋愛の経済学に関する実証研究を行う。研究に必要な実験計画法とミクロ計量経済学の理論も学ぶ。実験計画法の理論に基づき、仮想実験ビネット調査を設計・実施し、個票実験データを集め、分散分析やマルチレベルモデルによる実証分析を行う。新型コロナウイルスの感染状況から調査の実施が困難である場合には、公表されている観察データを用い、操作変数法、回帰不連続分析、差の差などによる実証分析を行う。	○身近な事情について経済学的視点から考察できる。 ○家族に関するニュースや、政策を経済学的視点から批評できる。 ○発表、質疑応答、討論ができる。 ○実験データと観察データの性質の違いを理解している。 ○実験計画法の基礎理論を理解している。 ○ミクロ計量経済学の基礎理論を理解している。 ○（4年生）国際標準の論文の書き方に従い、実証論文を書くことができる。										○		○		
大森ゼミナールⅡ	家族の経済学、恋愛の経済学に関する実証研究を行う。研究に必要な実験計画法とミクロ計量経済学の理論も学ぶ。実験計画法の理論に基づき、仮想実験ビネット調査を設計・実施し、個票実験データを集め、分散分析やマルチレベルモデルによる実証分析を行う。新型コロナウイルスの感染状況から調査の実施が困難である場合には、公表されている観察データを用い、操作変数法、回帰不連続分析、差の差などによる実証分析を行う。	家族の経済学、恋愛の経済学に関する実証研究を行う。研究に必要な実験計画法とミクロ計量経済学の理論も学ぶ。実験計画法の理論に基づき、仮想実験ビネット調査を設計・実施し、個票実験データを集め、分散分析やマルチレベルモデルによる実証分析を行う。新型コロナウイルスの感染状況から調査の実施が困難である場合には、公表されている観察データを用い、操作変数法、回帰不連続分析、差の差などによる実証分析を行う。										○		○		○
奥村ゼミナールⅠ	金融システムの仕組みと経済における役割を研究します。データ分析の方法についても勉強します。	経済の様々な問題に対し、オリジナリティのある自分の意見を持ち、それを論理的に構成し、他人に説得的に説明できるようになります。 4年生は卒業論文を完成することです。										○		○		○
奥村ゼミナールⅡ	金融システムの仕組みと経済における役割を研究します。データ分析の方法についても勉強します。	経済の様々な問題に対し、オリジナリティのある自分の意見を持ち、それを論理的に構成し、他人に説得的に説明できるようになります。 4年生は卒業論文を完成することです。										○		○		○
木崎ゼミナールⅠ	開発過程における市場の機能や政府の役割について、アジア地域の経済発展過程を事例として考察する。	経済成長やそれに伴う社会変化について基本的に理解する。											○		○	○
木崎ゼミナールⅡ	開発過程における市場の機能や政府の役割について、アジア地域の経済発展過程を事例として考察し、自らの見解をまとめらる。	経済成長やそれに伴う社会変化に対し基本的に理解し、自らの分析視角を持つ。											○		○	○
熊野ゼミナールⅠ	マーケットデザインを理論（オークション理論、マッチング理論）を中心に学習し、現実の問題に実践する。	学部上級から大学院レベルのマッチング、オークションの理論を理解する。	○					○					◎		○	
熊野ゼミナールⅡ	マーケットデザインを理論（オークション理論、マッチング理論）を中心に学習し、現実の問題に実践する。	学部上級から大学院レベルのマッチング、オークションの理論を理解する。	○					○					◎		○	
栗栖ゼミナールⅠ	本講義では、指定したテキストの輪読によりデータ分析に用いられる最新の計量経済学・統計学・機械学習の手法について習熟することを目的とする。	1.データ分析で利用される統計手法について簡単に説明できる。 2.学習した統計手法がどのようなデータ分析に利用される説明できる。 3.簡単なデータ分析の設定の下で学習した統計手法の具体的な計算ができる。	○									○		◎		○
栗栖ゼミナールⅡ	本講義では、指定したテキストの輪読によりデータ分析に用いられる最新の計量経済学・統計学・機械学習の手法について習熟することを目的とする。	1.データ分析で利用される統計手法について簡単に説明できる。 2.学習した統計手法がどのようなデータ分析に利用される説明できる。 3.簡単なデータ分析の設定の下で学習した統計手法の具体的な計算ができる。	○									○		◎		○
佐藤ゼミナールⅠ	本ゼミは、為替レートと国際金融の理論と実証分析の手法を身につけて、現代の国際経済が抱える重要な下記の課題を分析・考察する。(i) 為替レートの変動と貿易不均衡、(ii) 通貨・金融危機回避のための各国の為替政策とセーフティネットの構築、国際通貨システムの安定性、(iii) 地域経済統合の進展と域内通貨・金融協調体制の構築、(iv) 企業の国際的な事業活動（立地選択・フラグメンテーション）と為替戦略。	専門的な文献を読み、為替レート・国際金融の理論と実証分析の基礎を身につける。 ゼミでの発表をPower Pointを使用して行い、プレゼンテーション能力を向上させる。 実証分析のために自ら経済データを収集する。計量分析ソフトウェアであるRによって基本的な統計処理を行う力を身につける。										◎		○		○
佐藤ゼミナールⅡ	本ゼミは、為替レートと国際金融の理論と実証分析の手法を身につけて、現代の国際経済が抱える下記の重要な課題を分析・考察する。(i) 為替レートの変動と貿易不均衡、(ii) 通貨・金融危機回避のための各国の為替政策とセーフティネットの構築、国際通貨システムの安定性、(iii) 地域経済統合の進展と域内通貨・金融協調体制の構築、(iv) 企業の国際的な事業活動（立地選択・フラグメンテーション）と為替戦略。	専門的な文献を読み、為替レート・国際金融の理論と実証分析の基礎と応用の手法を習得する。 ゼミでの発表をPower Pointを使用して行い、プレゼンテーション能力を向上させる。 実証分析のために自ら経済データを収集し、計量分析ソフトウェアであるRを用いて、統計分析、計量経済分析を自らの手で行う力を身につける。										◎		○		○
佐野ゼミナールⅠ	ゲーム理論は社会における人々の相互依存関係を数学的に記述し、人々の行動やその帰結を理論的に分析する学問で、現代の経済学の様々な分野で活用されている。このゼミでは、ゲーム理論に関連する応用分野を学びながら、様々な現実の事象・問題を理解するための高度な論理的思考能力を身につけることを目指す。	1.ゲーム理論や経済学にかんする深い知識を身につけることができる。 2.ゼミでの報告を通じて、論理的なプレゼンテーションをすることができる。	○					○					◎		○	
佐野ゼミナールⅡ	ゲーム理論は社会における人々の相互依存関係を数学的に記述し、人々の行動やその帰結を理論的に分析する学問で、現代の経済学の様々な分野で活用されている。このゼミでは、ゲーム理論に関連する応用分野を学びながら、様々な現実の事象・問題を理解するための高度な論理的思考能力を身につけることを目指す。	1.ゲーム理論や経済学にかんする深い知識を身につけることができる。 2.ゼミでの報告を通じて、論理的なプレゼンテーションをすることができる。	○					○					◎		○	
シュレスタゼミナールⅠ	本ゼミでは産業連関分析を中心に経済分析の能力を身につける。特に、経済分析に必要なデータはすぐ分析に使えないことが多く、データ収集から分析に使えるデータの整備方法を学習する。さらに、実証分析を行うために、プログラミング(VBA)の基礎や表計算ソフトMS-EXCEL、数値計算ソフトMATLABも学習する。	簡単な数値計算プログラミングができ、卒業論文作成に应用できる知識を得る。	○									◎		○		○

シュレスタゼミナールⅡ	本ゼミでは産業連関分析を中心に経済分析の能力を身につける。特に、経済分析に必要なデータはすぐ分析に使えないことが多く、データ収集から分析に使えるデータの整備方法を学習する。さらに、実証分析を行うために、プログラミング(VBA)の基礎や表計算ソフトMS-EXCEL、数値計算ソフトMATLABも学習する。	簡単な数値計算プログラミングができ、卒業論文作成に应用できる知識を得る。	○					◎	○				○	
相馬(高)ゼミナールⅠ	本ゼミナールでは、グローバル化（国際化）とローカル化（地方分権化）が同時進行する中で、福祉をめぐる国家・市場・家族・非営利セクター（NPO等）の役割分担について、国際的な議論をふまえながら検討していきます。常に自分自身の問題にひきつけながら、社会政策をめぐる基本的な考え方について理解し、そこから現代社会福祉をめぐる問題を批判的に検討することが本ゼミナールのねらいです。	現代社会の福祉レジームの特質について、現状に即した把握ができるようになる。		○				◎				○		○
相馬(高)ゼミナールⅡ	本ゼミナールでは、グローバル化（国際化）とローカル化（地方分権化）が同時進行する中で、福祉をめぐる国家・市場・家族・非営利セクター（NPO等）の役割分担について、国際的な議論をふまえながら検討していきます。常に自分自身の問題にひきつけながら、社会政策をめぐる基本的な考え方について理解し、そこから現代社会福祉をめぐる問題を批判的に検討することが本ゼミナールのねらいです。	現代社会の福祉レジームの特質について、現状に即した把握ができるようになる。		○				◎				○		○
相馬(高)ゼミナールⅠ	マクロ経済学に関わるテーマで実証もしくは理論研究を行い、それを基に卒業論文を書く。	テーマを設定して研究を行い、その内容を論文にまとめられる。 自らの研究の内容を他の人に説明することができる。	○						○		◎		○	
相馬(高)ゼミナールⅡ	マクロ経済学に関わるテーマで実証もしくは理論研究を行い、それを基に卒業論文を書く。	テーマを設定して研究を行い、その内容を論文にまとめられる。 自らの研究の内容を他の人に説明することができる。	○						○		◎		○	
張ゼミナールⅠ	本ゼミは世界経済の構造的変化について、開発経済学の視角から考え、議論する。議論にあたっては、世界経済におけるアジアの役割を重視する。ゼミナールは受講生の研究発表の場でもある。本ゼミは、受講生自身による研究課題の発見、データの収集と分析、研究成果の発表を要求する。経済学的知見を学ぶとともに、海外でも通用する発表と議論の方法を養成することを目的とする。	・開発経済学に関する自らの理解を確立するようになる。 ・特定の国または地域の経済状況に関わる指標を自ら収集、分析することができるようになる。 ・質問力・問題解決力が必要とする建設的な議論を行うことができるようになる。 ・進級論文と卒業論文の作成が必須となる。				○	○				○		◎	
張ゼミナールⅡ	本ゼミは世界経済の構造的変化について、開発経済学の視角から考え、議論する。議論にあたっては、世界経済におけるアジアの役割を重視する。ゼミナールは受講生の研究発表の場でもある。本ゼミは、受講生自身による研究課題の発見、データの収集と分析、研究成果の発表を要求する。経済学的知見を学ぶとともに、海外でも通用する発表と議論の方法を養成することを目的とする。	・開発経済学に関する自らの理解を確立するようになる。 ・特定の国または地域の経済状況に関わる指標を自ら収集、分析することができるようになる。 ・質問力・問題解決力が必要とする建設的な議論を行うことができるようになる。 ・進級論文と卒業論文の作成が必須となる。				○	○				○		◎	
鶴岡ゼミナールⅠ	実証分析の手法を習得するために、教科書の輪読を通じて計量経済学を学ぶ。特に、ミクロ計量経済学を中心に勉強する。さらに、ミクロ経済学の理論を勉強するために行動経済学も学ぶ。	教科書の指定された箇所をゼミ中にわかりやすく報告し、ほかの人の報告においては積極的に質問・コメントする。	○				○				◎		○	
鶴岡ゼミナールⅡ	実証分析の手法を習得するために、教科書の輪読を通じて計量経済学を学ぶ。特に、ミクロ計量経済学を中心に勉強する。さらに、ミクロ経済学の理論を勉強するために行動経済学も学ぶ。	教科書の指定された箇所をゼミ中にわかりやすく報告し、ほかの人の報告においては積極的に質問・コメントする。	○				○				◎		○	
出口ゼミナールⅠ	本ゼミナールは、主に20世紀の日本社会について、歴史的な視点から多面的に学ぶことを目的としている。	日本近現代史に関する基礎的な内容を理解するとともに、史資料の読解・分析能力などを獲得した上で、オリジナリティのある卒業論文を作成すること。	○					○			◎		○	
出口ゼミナールⅡ	本ゼミナールは、主に20世紀の日本社会について、歴史的な視点から多面的に学ぶことを目的としている。	日本近現代史に関する基礎的な内容を理解するとともに、史資料の読解・分析能力などを獲得した上で、オリジナリティのある卒業論文を作成すること。	○					○			◎		○	
永井ゼミナールⅠ	このゼミの目的はビッグデータ時代に要求されるオンラインデータの統計解析の手法の基礎を学ぶことです。ゼミ授業では、AIテクノロジーを用いた計算知能アプリ「Wolfram Alpha」と、統計のためのプログラミング言語Rを使って、ビッグデータの時代において用いられる数理統計学のさまざまな技法を学びます。	微積分の技法が使えるようになること。数確率分布を離散型と連続型に分けてきちんと理解すること。大数の法則の意味を正確に理解し、収束の概念を把握する。正規分布の性質とその派生分布、および中心極限定理を理解すること。推定と統計的仮説検定の方法がわかること。重回帰分析および時系列解析を深く理解すること。オンラインデータが利用できるときの停止時刻の意味と、それを用いた推定と検定の方法がわかること。	○				○				◎		○	
永井ゼミナールⅡ	このゼミの目的はビッグデータ時代に要求されるオンラインデータの統計解析の手法の基礎を学ぶことです。ゼミ授業では、AIテクノロジーを用いた計算知能アプリ「Wolfram Alpha」と、統計のためのプログラミング言語Rを使って、ビッグデータの時代において用いられる数理統計学のさまざまな技法を学びます。	微積分の技法が使えるようになること。数確率分布を離散型と連続型に分けてきちんと理解すること。大数の法則の意味を正確に理解し、収束の概念を把握する。正規分布の性質とその派生分布、および中心極限定理を理解すること。推定と統計的仮説検定の方法がわかること。重回帰分析および時系列解析を深く理解すること。オンラインデータが利用できるときの停止時刻の意味と、それを用いた推定と検定の方法がわかること。	○				○				◎		○	
中村ゼミナールⅠ	ことばやコミュニケーションのシステムが、広告やコマーシャルを通じて企業や社会と私たちの間をどう結び付けているのかを研究します。人文科学や社会学あるいは文化研究など学際的な基盤をもつ広告論を出発点として、自分のいる「今」を考える態度について気付いてもらいたいと思います。	広告論の基本を習得するとともに、専門書（和書）を読み込む態度を身につけ、アカデミックなレポートやアブストラクトが書けるようになる。				○					◎		○	○
中村ゼミナールⅡ	ことばやコミュニケーションのシステムが、広告やコマーシャルを通じて企業や社会と私たちの間をどう結び付けているのかを研究します。人文科学や社会学あるいは文化研究など学際的な基盤をもつ広告論を出発点として、自分のいる「今」を考える態度について気付いてもらいたいと思います。	広告論の基本を習得するとともに、専門書（和書）を読み込む態度を身につけ、アカデミックなレポートやアブストラクトが書けるようになる。				○					◎		○	○
西川ゼミナールⅠ	国際金融の理論・歴史・現状について幅広く学んだ上で、特定のトピックについて発展的な学習と研究を行う。	・国際金融分野の基礎事項を他者に説明できるようになる。 ・学習内容を踏まえ、国際金融制度の抱える問題点について他者と議論できるようになる。				○	◎				○			○
西川ゼミナールⅡ	国際金融の理論・歴史・現状について幅広く学んだ上で、特定のトピックについて発展的な学習と研究を行う。	・国際金融分野の基礎事項を他者に説明できるようになる。 ・学習内容を踏まえ、国際金融制度の抱える問題点について他者と議論できるようになる。				○	◎				○			○
バーンズゼミナールⅠ	Students will learn the basics of trade theory, the gains from trade and the costs of protectionism. They will learn how to write an economic research paper.	Upon completion of the two-year seminar, the students should be familiar with modern trade theory, and the knowledge of how to research and write an economic paper.				○	○				◎			○
バーンズゼミナールⅡ	Students will learn the basics of trade theory, the gains from trade and the costs of protectionism. They will learn how to write an economic research paper.	Upon completion of the two-year seminar, the students should be familiar with modern trade theory, and the knowledge of how to research and write an economic paper.				○	○				◎			○
藤生ゼミナールⅠ	現在と将来のような異時点間の資源配分の問題が、経済学ではどのように定式化され、また応用されているかに動学マクロモデルを用いて理論的に理解すること。	経済理論を習得し理論分析の手法を身につける。プレゼンテーションの手法や資料の作成方法を身につける。	○				○				◎		○	
藤生ゼミナールⅡ	マクロ経済理論に関する理解を深めるとともに、各自の研究テーマにもとづいて分析を行い、卒業論文として完成させること。	自らの問題意識のもとで研究テーマを設定し、理論的・実証的分析を用いて研究結果を卒業論文を完成させること。	○				○				◎		○	

古川ゼミナールⅠ	このゼミでは、社会経済現象を理解するための統計分析について、発展的な内容を自主的に学習することを目指しています。具体的には、それぞれの学生が関心のあるテーマを提示し、それぞれの関心に合わせた「研究班」に分かれて勉強します。例えば、具体的なデータセットを見つけてRのプログラミングのプロジェクトに取り組んだり、数値統計の理論を深堀して学んだり、また公共政策における統計分析を丁寧に读んだりします。	率先して問題を見つけ、他の学生の発表や議論に積極的に建設的に参加することが求められます。また、このような学びのまともとして、卒業年次には独自の論文を執筆する必要があります。	○						○		◎		○		
古川ゼミナールⅡ	このゼミでは、社会経済現象を理解するための統計分析について、発展的な内容を自主的に学習することを目指しています。具体的には、それぞれの学生が関心のあるテーマを提示し、それぞれの関心に合わせた「研究班」に分かれて勉強します。例えば、具体的なデータセットを見つけてRのプログラミングのプロジェクトに取り組んだり、数値統計の理論を深堀して学んだり、また公共政策における統計分析を丁寧に读んだりします。	率先して問題を見つけ、他の学生の発表や議論に積極的に建設的に参加することが求められます。また、このような学びのまともとして、卒業年次には独自の論文を執筆する必要があります。	○						○		◎		○		
邊ゼミナールⅠ	学術書を輪読形式で読み進めることを通じて、読解・プレゼン・ディベート・論文作成能力を養うのが、本ゼミナールの目的です。	・2年生は、入門的な学術書（新書レベル）を読解・発表・質疑ができるようになる。また、他のゼミ生とのコミュニケーションができる。 ・3年生は、標準的な学術書を読解・発表して、ディベートができるようになる。また、下級生の指導ができる。	○			○		○							○
邊ゼミナールⅡ	学術書を輪読形式で読み進めることを通じて、読解・プレゼン・ディベート能力及び卒業論文作成能力を養うのが、本ゼミナールの目的です。	・3年生は、標準的な学術書を読解・発表して、ディベートができるようになる。また、下級生の指導ができる。さらに、論点提示を行うことができる。 ・4年生は、卒業論文のテーマを見つけ、それを仕上げるための先行研究整理・資料収集・卒業論文執筆ができる。また、下級生の質問・論点にそれなりの回答をすることができる。	○			○		○							○
マッコーレーゼミナールⅠ	This seminar considers both practical and theoretical aspects of cinema, with a particular focus on screenwriting. The course runs on five modules across the two years of the Seminar. The modules are (1) Screenwriting (short films) (2) Film Studies (Critical Theory) (3) Screenwriting (genre feature films) (4) Transnational Currents in Japanese Cinema (5) The Business of Film	Students who complete the course will have a firm grasp of the main theories underpinning the field of screenwriting and cinema. You will develop independent critical thinking skills, creative writing skills and academic writing skills. You will also have carried out independent ethnographic research on a screenplay-related project.				○		○				◎			○
マッコーレーゼミナールⅡ	This seminar considers both practical and theoretical aspects of cinema, with a particular focus on screenwriting. The course runs on five modules across the two years of the Seminar. The modules are (1) Screenwriting (short films) (2) Film Studies (Critical Theory) (3) Screenwriting (genre feature films) (4) Transnational Currents in Japanese Cinema (5) The Business of Film	Students who complete the course will have a firm grasp of the main theories underpinning the field of screenwriting and cinema. You will develop independent critical thinking skills, creative writing skills and academic writing skills. You will also have carried out independent ethnographic research on a screenplay-related project.				○		○				◎			○
松永ゼミナールⅠ	近現代における世界経済史に関するトピックを学習することを通じて、世界経済の構造実容を理解する。	近現代における世界経済の歴史的背景について学習することを通じて、経済現象をとらえる歴史的視点を獲得する。	○					○			○				○
松永ゼミナールⅡ	近現代における世界経済史に関するトピックを学習することを通じて、世界経済の構造実容を理解する。	近現代における世界経済の歴史的背景について学習することを通じて、経済現象をとらえる歴史的視点を獲得する。	○					○			○				○
茂住ゼミナールⅠ	本ゼミナールでは、財政社会学の観点から、様々な財政問題や社会問題を、政治・経済・社会情勢や国際情勢の変化などの関連から学んでいく。同時に、社会思想に関する古典を輪読する。以上の作業を通じて、1) 世界各国において、なぜ今日の財政問題や社会問題が生じたのかを学び、2) そのような現状において、どのような政策が取られるかを考えていく。加えて、これらの成果と受講生の問題関心をともに決めた題材に沿って調査を行い、そこで得た情報・知見に基づいて共同論文執筆を行う。	・財政学と財政社会学の基礎知識を身につける。 ・文献輪読を行うことで、今日の日本や諸外国の財政政策や社会の状況について、自らの見解を述べることができる。 ・共同研究を通じて、社会科学の手続きを身につけ、論文執筆、発表の技術を身につけることができる。					○				○		◎		
茂住ゼミナールⅡ	本ゼミナールでは、財政社会学の観点から、様々な財政問題や社会問題を、政治・経済・社会情勢や国際情勢の変化などの関連から学んでいく。同時に、社会思想に関する古典を輪読する。以上の作業を通じて、1) 世界各国において、なぜ今日の財政問題や社会問題が生じたのかを学び、2) そのような現状において、どのような政策が取られるかを考えていく。加えて、これらの成果と受講生の問題関心をともに決めた題材に沿って調査を行い、そこで得た情報・知見に基づいて共同論文執筆を行う。	・財政学と財政社会学の基礎知識を身につける。 ・文献輪読を行うことで、今日の日本や諸外国の財政政策や社会の状況について、自らの見解を述べることができる。 ・共同研究を通じて、社会科学の手続きを身につけ、論文執筆、発表の技術を身につけることができる。					○				○		◎		
山崎ゼミナールⅠ	途上国の「開発」について、地域経済、地方自治、地方財政の視点から研究する。地方分権化、住宅・都市整備、環境保全、通貨危機、年金問題、保健衛生、教育財政といった公共政策に関する 이슈ウと、地場産業振興など市場（マーケット）の 이슈ウを扱う。対象国については主にラテン・アメリカ、アフリカ、南アジアを扱う。理論問題としては、途上国の国家論（国家の相対的自律性の問題）も扱う。	第1に、基本的なモデルや理論や分析手法を学ぶ。人にわかりやすく説明できるように、経済学や途上国開発の考え方についての理解を深めることを到達目標とする。第2に、考えをゼミの他のメンバーに対してアウト・プットすることによって、書物や講義で得た知識を「活性化」させる能力を身につける。第3に、合宿、他大学との合同卒業発表会などのマネジメント能力を養うこと。					○					○	◎		○
山崎ゼミナールⅡ	赴任以来の30数年をふりかえると外国語能力（英語やポルトガル語）の制約から、最終的に日本を対象とした卒業論文を書いた人も、3分の1以上に達している。そこで卒業執筆については、「途上国班」と「日本班」の2つに形式上分けることにした。これはあくまで卒論のテーマに関しての区分であり、ゼミの目的は途上国研究である。したがって、日々の活動は両班常に一緒で、従来通り途上国経済に関する研究をおこなう。	考えをゼミの他のメンバーに対してアウト・プットすることによって、書物や講義で得た知識を「活性化」させる能力を身につける。ゼミでの討論に積極的に参加することによって、知識を吸収するばかりであったパッシブ（受動的）な学生から、アクティブに情報を発信する学生に成長する。活発に発言するような「動的な」学生についても、それだけでは不十分で、そのエネルギーを卒論に収収させていく能力を身につける。					○					○	◎		○
法律系ゼミナール(国際事情)Ⅰ	本ゼミでは、私たちが直面している喫緊のグローバルな問題（国際的な、あるいは地球規模の諸課題である、貧困、人権、安全保障、国際的な経済関係（貿易・投資）、資源・環境問題等々）を対象に、「その問題は、何故発生し、どんな状況にあり、そしてその解決のためにはどのような対策が必要とされるのか/適切なのか?」を、参加者各自の調査に基づき報告と議論を通じて検討し考察する。2022年度は「グローバル社会における国家論」というかなり広い範囲で、ゼミ受講者の各自に、それぞれの興味・関心に応じた問題を設定してもらい、その問題に関する具体的な状況や事情等を調査・報告し討論を行うことを通じて、これからの社会と世界のありかたについての考察を深める。教員は、調査・報告・討論の各段階で必要な助言等の補助や支援を行う。なおゼミとしての共通テーマは、必要あるいは適切ならば、受講者と相談のうえで設定する。	各自が設定した課題を理解するのに必要な最低限の知識を身につけたうえで、他者との意味ある討論を積極的に行える等、大学生に期待されるコミュニケーション力を備えること。				○					◎			○	
法律系ゼミナール(国際事情)Ⅱ	本ゼミでは、私たちが直面している喫緊のグローバルな問題（国際的な、あるいは地球規模の諸課題である、貧困、人権、安全保障、国際的な経済関係（貿易・投資）、資源・環境問題等々）を対象に、「その問題は、何故発生し、どんな状況にあり、そしてその解決のためにはどのような対策が必要とされるのか/適切なのか?」を、参加者各自の調査に基づき報告と議論を通じて検討し考察する。	各自が設定した課題を理解するのに必要な最低限の知識を身につけたうえで、他者との意味ある討論を積極的に行える等、大学生に期待されるコミュニケーション力を備えること。				○		○				◎			○
法律系ゼミナール(ビジネスと法)Ⅰ	現代ビジネスをめぐるさまざまな問題について民事法的な側面から検討し、紛争が生じた場合の具体的な解決方法を学ぶ。最終的には、ゼミで取扱ったテーマを中心に各自でテーマを設定し、卒業論文を執筆する。	民法、商法、知的財産法、民事手続法の基本知識を理解し、与えられたテーマについて適切にレジュメを作成し、報告することができる。他の受講者の報告を受けて質問することができる。そして質問に対して応答し、さらに議論を展開することができるなど、法的問題をめぐるコミュニケーション力を身につける。また、法的な文章を書けるようになる。				○		○				◎			○
法律系ゼミナール(ビジネスと法)Ⅱ	現代ビジネスをめぐるさまざまな問題について民事法的な側面から検討し、紛争が生じた場合の具体的な解決方法を学ぶ。最終的には、ゼミで取扱ったテーマを中心に各自でテーマを設定し、卒業論文を執筆する。	民法、商法、知的財産法、民事手続法の基本知識を理解し、与えられたテーマについて適切にレジュメを作成し、報告することができる。他の受講者の報告を受けて質問することができる。そして質問に対して応答し、さらに議論を展開することができるなど、法的問題をめぐるコミュニケーション力を身につける。また、法的な文章を書けるようになる。				○		○				◎			○
法律系ゼミナール(法と裁判・行政実務)Ⅰ	本ゼミは、基本的な法領域としての民法・刑法及び展開的な法領域としての国際法や民事訴訟法を中心に、それらの法領域における議論を踏まえて個別具体的な事案を検討することで、法的な思考方法を養うことを目的とする。	判例や学説について一定程度理解した上で、具体的事例について法的なポイントを押さえて整理することができ、他の受講生からの質問にも一定程度説得的な返答を行うことができることを目標とする。				○		○				◎			○
法律系ゼミナール(法と裁判・行政実務)Ⅱ	本ゼミは、基本的な法領域としての民法・刑法及び展開的な法領域としての国際法や民事訴訟法を中心に、それらの法領域における議論を踏まえて個別具体的な事案を検討することで、法的な思考方法を養うことを目的とする。	判例や学説について一定程度理解した上で、具体的事例について法的なポイントを押さえて整理することができ、他の受講生からの質問にも一定程度説得的な返答を行うことができることを目標とする。				○		○				◎			○
法律系ゼミナール(立法政策と法)Ⅰ	本ゼミナールは、我々の日常生活に関わる法制度やこれを改正しようとする立法提案について学ぶとともに、その基礎にある理念について考察を深めつつ、直近の法政策についての批判的検討や具体的提言を行うことを目的とします。多くの人が納得できる法政策の立案には、関係する当事者の視点に立つ想像力や真なる利害を調整するバランス感覚が必要になります。ゼミナールでは、将来の進路にかかわらず役立つ、こうした力を養います。	考察した法政策について明確かつ論理的な文章として表現できる力を習得する。				○		○				◎			○
法律系ゼミナール(立法政策と法)Ⅱ	本ゼミナールは、我々の日常生活に関わる法制度やこれを改正しようとする立法提案について学ぶとともに、その基礎にある理念について考察を深めつつ、直近の法政策についての批判的検討や具体的提言を行うことを目的とします。多くの人が納得できる法政策の立案には、関係する当事者の視点に立つ想像力や真なる利害を調整するバランス感覚が必要になります。ゼミナールでは、将来の進路にかかわらず役立つ、こうした力を養います。	考察した法政策について明確かつ論理的な文章として表現できる力を習得する。				○		○				◎			○